

キャリア成果



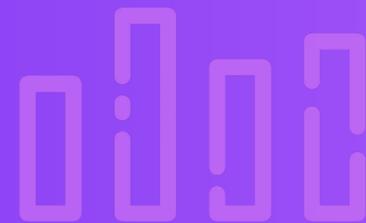
をもたらす創造性とAIの
相乗効果を高等教育機関と
Adobe Creative Campusで実現



Edelman
DXi



Adobe



目次

概要	3
世界の採用担当者が求める、クリエイティブスキルとAIスキルを備えた卒業生	13
キャンパス全体に取り入れられたクリエイティブスキルとAIスキルが学生のキャリアパスを拡大	20
アドビのクリエイティブスキルとAIスキルを使って採用担当者にアピール	32
アドビスキルのある学生は早期に採用決定 — クリエイティブキャンパスが道を開く	42
アカデミックリーダーのための重要なポイント	47
付録：国・地域別情報	51
参考資料	54



概要



急速に進化する現在の雇用市場では、様々な業界で生成AI導入による変化が推進されており、人事担当者は学位を持つ候補者だけでなく、変化にすばやく適応する柔軟性、優れたAIスキル、様々なメディアを通じて複雑なアイデアを伝える能力など、必須のスキルを持つ人材を求めています。

生涯を通して学び続け、創造的な問題解決ができる人、変化の激しいこの環境に適応し、成長できる人こそが、成功を手にすることができるのです。残念ながら、卒業生の多くはこうした必須スキルがなかったり、自分の能力を効果的に採用側にアピールするのに苦労したりしています。

高等教育の価値がますます問われるなか、教育機関は人材需要への対応を刷新しなければ、学生を準備不足のまま社会へ送り出すことになってしまいます。これは学生の成果にも、教育機関の評判にも、将来の入学志望者数にも影響を及ぼします。

本レポートでは、高等教育機関に在学する学生と社会に出て間もない卒業生がキャリアパスを歩みはじめる過程に目を向け、それが初期のキャリアに与える影響を探っていきます。

調査会社のエデルマンは、Adobe Creative Campusも含めた世界中の高等教育機関の学生からインサイトを収集しています。本レポートは、クリエイティブツールやAIツールへのアクセスがどのように学生の成功に役立つかを明らかにするものです。

アドビが提供する業界標準のクリエイティブツールやマルチメディアツールを活用することで、学生はキャリアパスに関する自信と明確な視野を獲得し、より良い就職機会につなげることができます。これらのツールがすべての専攻で利用可能になると、デジタルリテラシー、学業への取り組み、雇用可能性が大幅に向上します。

本レポートはアカデミックリーダー向けに、変化を促進して次世代を有意義なキャリアに備えさせるための重要なインサイトと戦略を提供します。



重要ポイント

1

85%

現在アドビツールを使用している学生の85%が、極めて重要な創造的思考スキルを伸ばすうえでアドビツールが役立っていると回答しています。また、**84%**が、アドビツールのおかげで自己表現力とコミュニケーションスキルが向上したと回答しています。

こうしたスキルは技術的な技能にとどまるものではありません。学生たちは、自信を持ってアイデアを伝え、問題を解決し、自分の見解を表現できるようになってきており、それが学業の成績と長期的な雇用可能性をともに高めることになっています。学業がこれほど直接的にキャリアで生かせるスキルにつながり、創造性を介して自信と目的意を高められるというのは、多くの学生にとって初めての経験となっています。

2

3

4

5

6

重要ポイント

1

2

86%

Adobe Creative Campusの学生の86%が、AIリテラシーについては大学で準備ができていると感じています。これに対し、Creative Campus以外でアドビツールを使用している学生では74%、アドビツールを利用していない学生ではわずか63%にとどまっています。

このデータからわかるとおり、重要なのはツールに触れる機会を増やすことですが、それが意図的にキャンパス全体に取り入れられているかどうかで大きな違いが生まれます。Adobe Creative Campusでは学生がツールにアクセスできるだけでなく、AIが導入されている職場でうまくやっていくための自信とスキルも身につけています。このような高等教育機関は、アドビツールを全学部を導入することで、公平にデジタル社会に備えるための新たな基準を確立し、卒業生全員が変化の激しい経済環境に適応して活躍できるようにしています。

3

4

5

6

重要ポイント

1

2

3

93%

学位取得課程でアドビツールを使用していたキャリアの浅い社会人の93%が、就職面接でそのスキルをアピールして成功したと回答しており、現在アドビツールを使用している学生の81%が、インターンシップや仕事に応募する際に同様のアピールをおこなおうと考えています。

クリエイティブツールはキャリアを築く上で大きな強みになっています。面接では学生がアドビツールで作成したプロジェクトを具体的な例として提示し、スキルと問題解決能力を証明することで、何を学んだかという話から、何ができるかという話へつなげています。これは信頼を築くことになるだけでなく、即戦力となる候補者を採用してただちに価値に転換できることを採用担当者に理解してもらえることにもなります。

4

5

6

重要ポイント

1

2

3

4

72%

キャンパス内でアドビツールの使い方を学んだ卒業生のうち、卒業後6か月以内に正規の仕事に就いた人の割合は72%ですが、Creative Campusの卒業生ではこの数字が**79%**に上昇します。

アドビツールのスキルを身につけた卒業生は、社会人として優位なスタートを切っています。アドビのスキルと資格は人事担当者から即戦力の証と見なされているため、スキル自体と認知度の両方がこの優位性につながっているのです。早く採用が決まるということは、Adobe Creative Campusで習熟したクリエイティブスキルが学業で強みになるだけでなく、キャリアをスタートさせる上でも優位な差別化要因になることの証左と言えます。

5

6

重要ポイント

1

2

3

4

5

6

4.3倍

LinkedInではクリエイティブスキルのある人の採用が4.3倍に増加しています。

LinkedInでは、2021年から2024年にかけて、クリエイティブスキルを記載している人の採用数が4.3倍に増加しました。これは、ビジュアルストーリーテリング、コンテンツ作成、クリエイティブな問題解決に対する人事担当者の需要急増を反映したものです。クリエイティブスキルとAIスキルのある学生、特にAdobe ExpressやCreative Cloudなどのツールに習熟した学生は、新卒採用市場で大きな存在感を放ち、成長著しい職種で注目を集めています。

重要ポイント

1

2

3

4

5

6

83%

学生時代にアドビツールを使用していたキャリアの浅い社会人の83%が、仕事でクリエイティブスキルを活かす機会が月に1回以上あると回答しています。これに対し、学生時代にアドビツールを使用していなかった人では70%にとどまっています。

卒業生たちは一貫して、身につけたクリエイティブスキルの価値はずっと続くという認識を持っています。学位取得課程でアドビツールを使用し、コラボレーション、問題解決、創造的コミュニケーションなどのスキルを習得した人たちは、これらのスキルについて、単にあればよいというものではなく、職場で繰り返し求められるものであると述べています。

調査方法の要約

一次資料:エデルマン社が2025年に発表した学生のエンゲージメントと認識に関する調査

アドビの委託を受けて実施された本調査は、クリエイティブツール (Adobe Express、Firefly、Creative Cloud など) を使用することによって、学生のエンゲージメント、目的意識、アイデンティティ、教育機関のサポートに対する認識がどのような影響を受けるかを調査したものです。

オンラインアンケート調査:2025年6月17日から7月15日の期間、世界10か国の市場 (米国、英国、オーストラリア、インド、ドイツ、フランス、日本、イタリア、ノルウェー、スウェーデン) で20分間の定量調査を実施。

- ▷ 高等教育機関の学生 (n=1,900) :18歳以上、2年制または4年制の大学課程、大学院課程に在籍
- ▷ キャリアの浅い社会人 (n=900) :過去2~3年以内に4年制大学を卒業し、2~3年の職歴がある

定性調査:2025年7月14日から17日の期間に45分間のセッションを実施。

- ▷ 米国 (n=7) および英国 (n=7) の全日制大学に在籍する学生。全員がアドビユーザー。半数がアドビ認定資格またはバッジを保有。

LinkedIn データ:LinkedIn との提携に基づき、世界中の求人情報と応募者プロフィールの分析から得た補足的スキルと採用に関するインサイト (2020~2024年)。



将来に向けて:キャリア形成の全貌

本レポートは、クリエイティブスキルとAIスキルの構築という観点から、5つの章に分けて学生の変化の軌跡をたどります。

第2章では世界の採用状況を概観し、創造性、AIスキル、ビジュアルコミュニケーションがもはや選択的なものではなく、不可欠となっている理由を明らかにします。

第3章では、学生の体験について詳しく掘り下げ、アドバイツールを初めて使用することがどのように考え方を変化させ、自信を醸成し、自己表現と発見への新しい道を開くかを検証します。

第4章と**第5章**では、学生がこれらのスキルを用い始め、注目を集めるポートフォリオを作成し、面接を乗り越え、最終的に競争の激しいキャリアに就いて成功するまでの過程を追っていきます。

最後に**第6章**では、教育機関に焦点を当て、先見性の高い大学が全学部にアドバイツールを導入し、学生の定着率、公平性、卒業後の成功において目に見える成果を上げていることを紹介します。

本レポートで明らかにされているとおり、大学のCIO、学部長、学生支援責任者、教職員のいずれにとっても、学生を将来の仕事に備えさせるということは、すなわちクリエイティブスキルとAIスキルを身につけられるツールへのアクセスを拡大するということです。



世界の採用担当者が求める、 クリエイティブスキルと AIスキルを備えた卒業生



様々な業界で、創造性とAI活用能力が任意・歓迎スキルから必須スキルへと変わりつつあります。

現在、世界経済フォーラムのランキングによると、2025年までに企業での優先順位が高くなるとされるスキルとして、創造的思考が分析力や技術力と並んでトップ5に挙げられています¹。こうした需要があるのは、従来のクリエイティブ分野に限りません。ヘルスケア、教育、金融、通信などの分野はすべて、アイデアを生み出し、視覚的に問題を解決し、生成AIなどの新しいツールに適応できる卒業生を求めています。

高等教育機関のリーダーにとって、何が重要かは明らかです。学生を現在の就職市場に備えさせるには、実務的な知識以上のものがが必要です。学部を超えて、クリエイティブスキルとデジタルスキルに対する自信を醸成するカリキュラムが求められています。この章では、LinkedIn、McKinsey、世界経済フォーラムなどを情報元として、世界の労働者に関するインサイトを紹介します。

このインサイトには、創造性、コミュニケーション、AIリテラシーが企業の求める必須能力になりつつある状況、そしてこうしたスキルを優先する教育機関の卒業生が明らかに優位となる理由が示されています。



LinkedInの2024年『Global Talent Trends』レポートによると、クリエイティブスキルを記載している人の採用が2021年から2024年で4.3倍に増加しており、クリエイティブな能力がもはやデザイン部門だけで必要とされるものではなく、**強化されています**²。



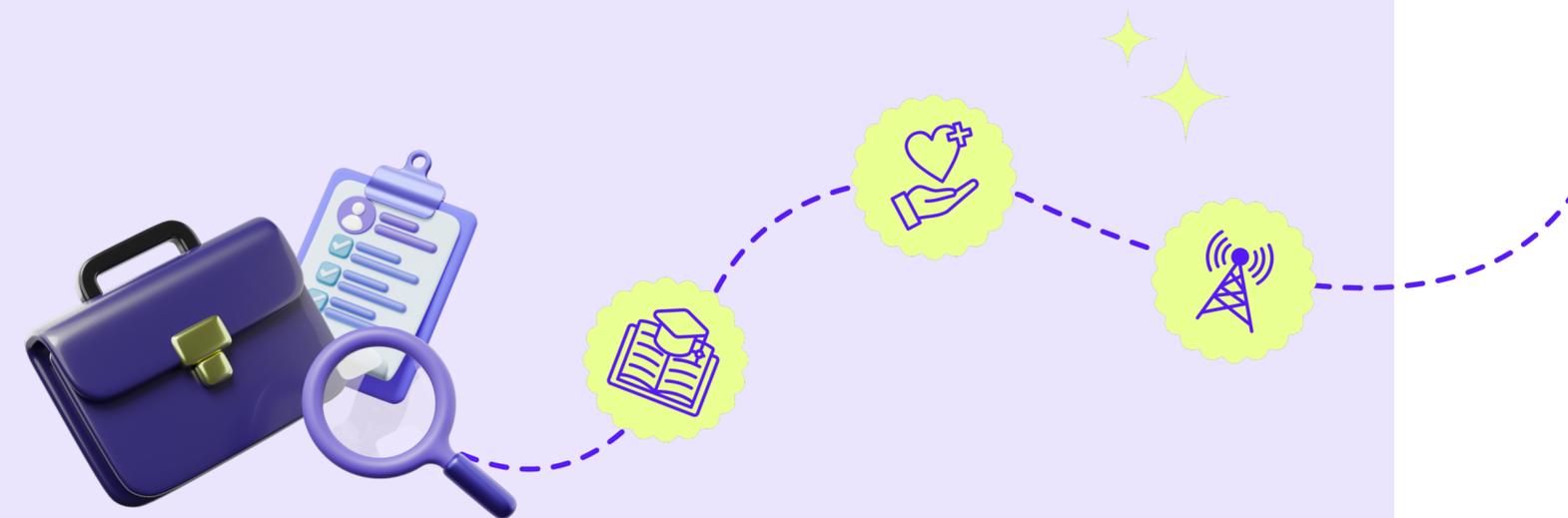
現在、世界の人事担当者の70%が、プロセスの自動化や効率化だけでなく、創造性と革新性を高めるために生成AIを活用しています。このインサイトから明らかとなり、創造性とAIスキルは今や戦略的な人材の必須要件となっています。



生成AIを使用している世界の企業の76%が、作業時間を大幅に短縮して、コラボレーション、アイデア創出、ストーリーテリングといった人間主体の高付加価値業務に再び専念できるようになったと言っています。



創造的思考とAIスキルは、世界経済フォーラムによると、教育・研修(79%)、ヘルスケア(76%)、通信(75%)の分野で高い需要があります¹。また、AIとビッグデータのリテラシーは、専門サービス(98%)からヘルスケア(92%)まで、様々な分野で需要が急増しています。



職場で必須となる創造性とAIスキル

創造的思考とAIスキルは、業界を問わず、急速に必須の職務スキルになりつつあります。世界経済フォーラムは、創造的思考の需要が2030年までに66%増加し、採用側が求めるスキルのトップ5にランクインすると予測しています¹。

LinkedInのデータがこの変化を裏付けています。クリエイティブスキルとコミュニケーションスキルは、高成長分野の求人情報のほぼ半数に記載されており、コミュニケーションスキルについては現在のところ、全体的に最も需要の高いスキルとしてランキングされています³。これは、創造性が不可欠であるという認識が、もはや特定の分野だけでなく、ヘルスケア、金融、テクノロジー、教育など様々なセクターで広まっていることを反映しています。

AIとは、人間の創造性にとって代わるものではなく、むしろそれを増幅するものです。マッキンゼーの試算では、生成AIによってコンテンツ制作とデザインの効率が20~40%向上するとされており、この変化の波にうまく乗るにはクリエイティブスキルが不可欠となります⁴。

現在のトップ企業が求めているのは、コンテンツを開発し、説得力のあるプレゼンテーションを作成し、視覚的なコミュニケーションをおこない、AIツールを創造的に活用して新しいエキサイティングな方法でチームの現状を変革できる人材です。

高等教育機関のリーダーにとって、それが何を意味するかは明らかです。今や創造性は基本的なインフラとなっています。目的を持って自由にツールを使いこなせるように学生を指導できる大学こそが、テクノロジーとイマジネーションが形作る未来をリードしていく人材を育成できる教育機関となるでしょう。



様々な業界におけるクリエイティブスキルとAIスキルの需要

創造性は、もはやデザイン事務所やマーケティング部門だけで必要とされるものではありません。ほぼすべての業界で、採用担当者は創造性とAIスキルを付加的な能力ではなく必須の能力として重視しています。

世界経済フォーラムの2025年『Future of Jobs』によると、創造的思考は2025年までに必要となるコアスキルのトップ5にランキングされており、伝統的に規制が厳しく保守的で専門性が高いと見られてきた業界でもその価値が高まっています。¹

どの業界も適応を進めており、キャリアに向けた準備の定義も変わりつつあります。少し前まで、あればあったで望ましいという程度に見られていたスキルが、今では影響力、リーダーシップ、イノベーションに欠かせないスキルになっています。

これは高等教育機関にとって、学生が創造的に思考し、AIを自在に操れるように準備することが、もはや芸術分野に限らず、あらゆる専攻分野で極めて重要になっていることを意味します。

あらゆる業界で需要があるクリエイティブスキルとAIスキル

世界経済フォーラム2025年『Future of Jobs』レポートから得られるインサイト。

79% 教育・研修業界の人事担当者の79%が、カリキュラム設計、デジタルラーニング、学生エンゲージメントに関する戦略には創造的思考が不可欠であると述べています。

76% ヘルスケア業界の採用責任者の76%が、共同作業、患者指導、新しい形のケアに対応するため、クリエイティブスキルとコミュニケーションスキルを重視しています。

75% 通信・テクノロジー企業の75%が、アジャイル開発、部門横断的な共同作業、製品ストーリーテリングにおいて、創造的な問題解決に価値を置いています。

98% 専門サービス企業の98%が、デザイン思考やコンテンツ作成の専門知識と併せて必要になることの多いスキルとして、AIスキルとビッグデータスキルの需要が高まっていると述べています。

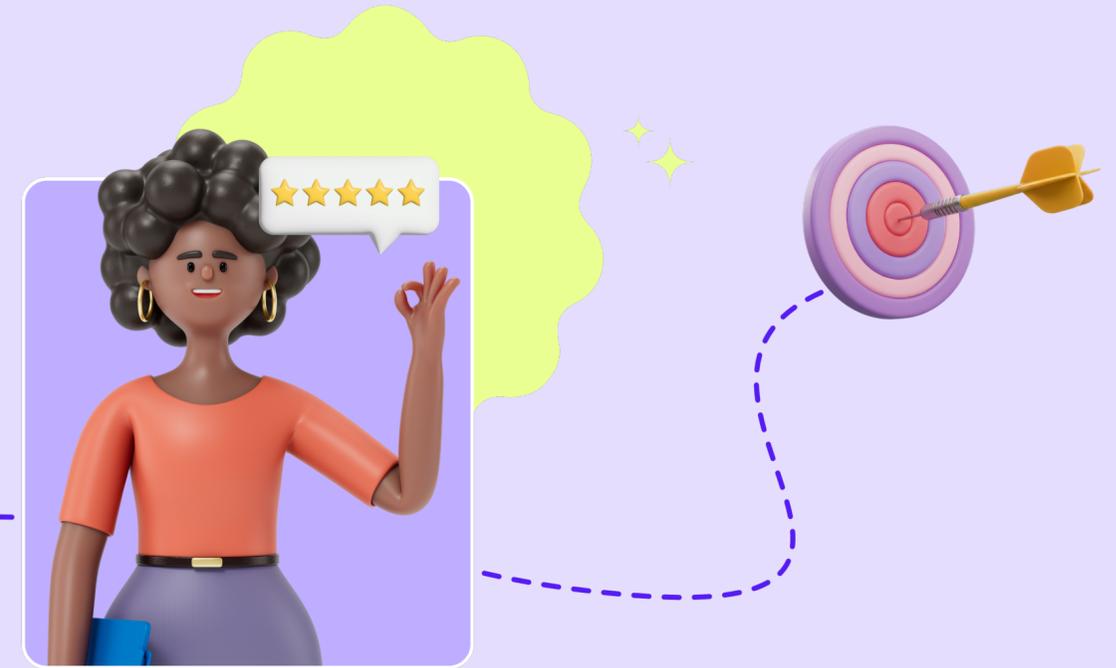


Adobe Creative Campus 訪問記： オーバーン大学

アラバマ州初の Adobe Creative Campus であるオーバーン大学は、学生の定着率と卒業率が向上し続けており、米国でもトップクラスの公立大学のひとつとなっています。この大学が成功を収めている一因として、学生が教室の内外で成果を上げられるよう設計されたキャリア重視のプログラムなど、学業と学生の様々な経験を重視していることが挙げられます。

例えば、オーバーン大学では Adobe Express を使用し、視覚的に学べるプロジェクトベースの学修を通じて、クリエイティブ分野以外を専攻する学生が実践的なコミュニケーションスキルを習得できるよう支援しています。

Makeela J. Wells 博士は、授業を現実社会の体験にリンクさせることが重要との認識を持っています。博士号の取得に向けて研究しながら初めて授業を受け持った Wells 博士は、試験や論文に重きを置いた従来の課題が、職場で採用側に求められる内容と必ずしも一致していないことに、すぐ気が付きました。



“ 学生から推薦状を求められた場合、前回の試験の成績だけでなく、授業で実証されている具体的なスキルも書ければはるかに効果的です。

現在、私が課題を出す場合は、調査スキルや批判的思考スキルの向上など、必ず課題の目的をはっきりさせるところから始めています。このようなスキルは、どの分野を専攻していようと、すべての学生にとってキャリアの目標につながるものです。”

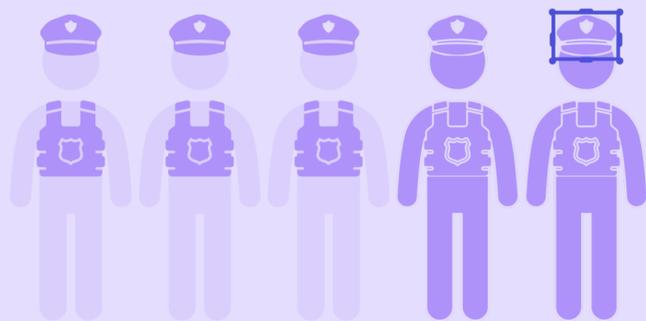
— Makeela J.Wells 博士(オーバーン大学、社会学助教授)

Wells博士の「警察と社会」の授業では、学生たちが従来のような論文の代わりにインフォグラフィックの課題に取り組み、それがオーバンの公の場にあるデジタルウォールで公開されました。このプロジェクトは学生たちに、複雑な社会問題を明確で視覚的な物語としてまとめることを推奨したものでした。

学生たちはチームで共同作業を行い、Adobe Expressでテンプレートをカスタマイズすることで、職場で期待されるデザイン、ストーリーテリング、批判的思考を反映したツールを実際に体験しました。このプロジェクトによって、クリエイティブな表現が促されただけでなく、警察の活動をめぐる公の対話も増え、アドビのクリエイティブテクノロジーが学生の学びと市民の参加とともに豊かなものにできることを実証する形となりました。

“カスタムインフォグラフィックパネルのデザイン方法を習得してしまえば、学生はそのスキルを簡単に応用し、SNS投稿からプレゼンテーション、デジタルサイネージまで、Adobe Expressであらゆるものをデザインできるようになります。このプロジェクトを通して、学生はオーバーン大学でも将来の仕事でも役立つデジタルリテラシースキルを向上させることができます”

— Chelsy Hooper博士(オーバーン大学、教育技術コーディネーター)



まとめ

創造性とAIスキルは、もはや少数の選ばれた人たちの領域ではありません。現在の就職市場においては、卒業生に期待される基本的なスキルとして急速に定着しつつあります。

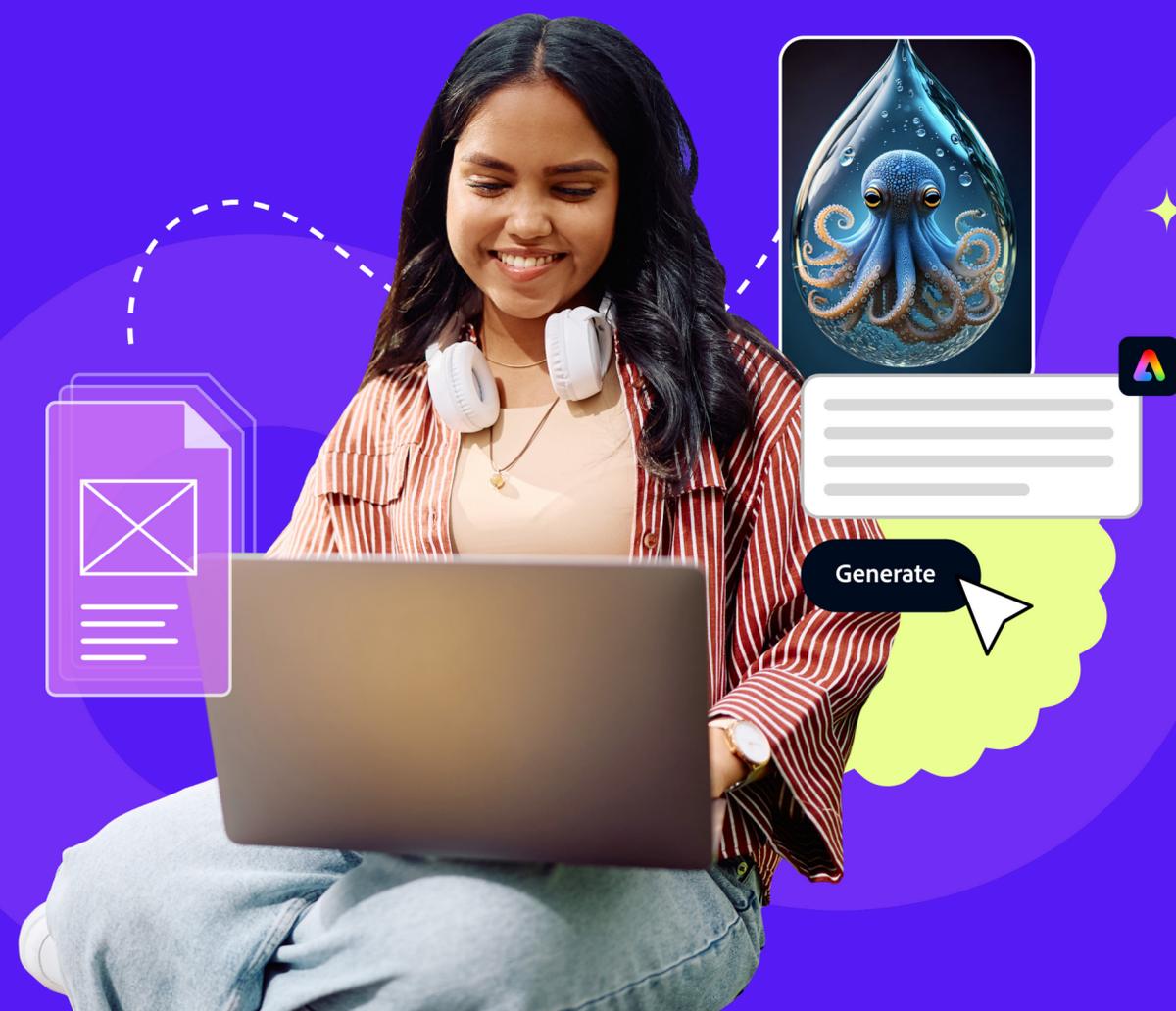
2025年以降は、あらゆる人事担当者の「求めるスキル」リストに、デジタルリテラシー、データ分析、リーダーシップと並んで、創造性、コミュニケーション、コンテンツ作成が記載されることになるでしょう。現在、ヘルスケアからビジネス、公共サービスに至るまで、求人情報にはAdobe Creative CloudやAdobe Expressなどのツールが、プラスアルファではなく必須アイテムとして頻繁に記載されるようになってきました。

大学にとって、この変化は大きなチャンスです。学部を超えてクリエイティブツールやAIツールを導入している教育機関は、現在の就職市場に学生を備えさせるだけでなく、教育機関自体の競争力も強化することにもなっています。

大学はイノベーションとキャリア準備のハブとしての地位を確立することで、入学志望者へのアピールを強化し、採用側への認知が高まり、進化し続ける労働市場の需要への対応を促進することができます。今や、この領域で先駆けとなることが、教育機関としての意義と学生の成功への貢献を明確に示すことになるのです。



キャンパス全体に取り入れられた クリエイティブスキルとAIスキルが 学生のキャリアパスを拡大

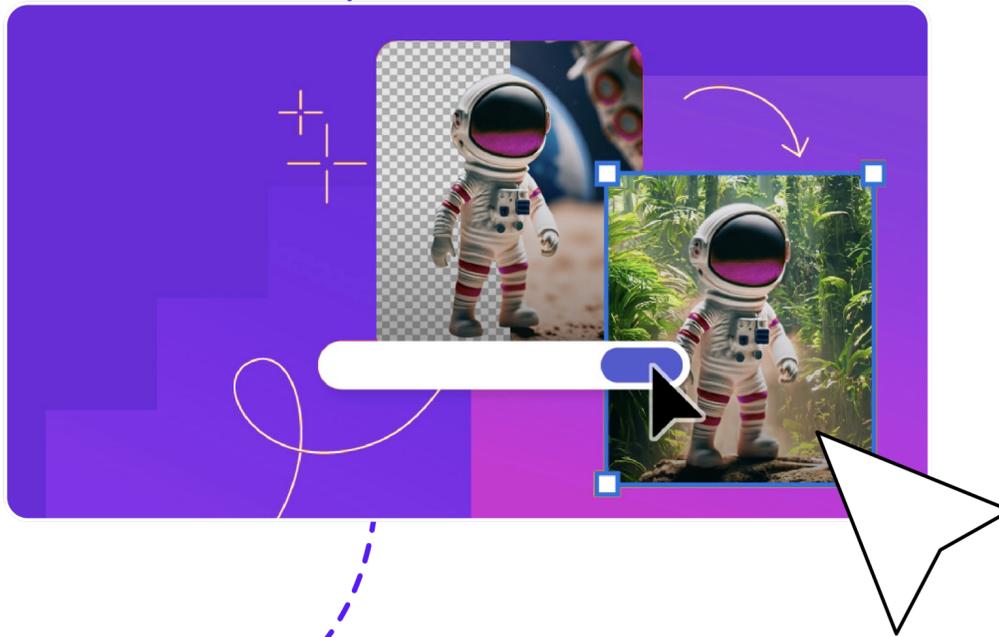
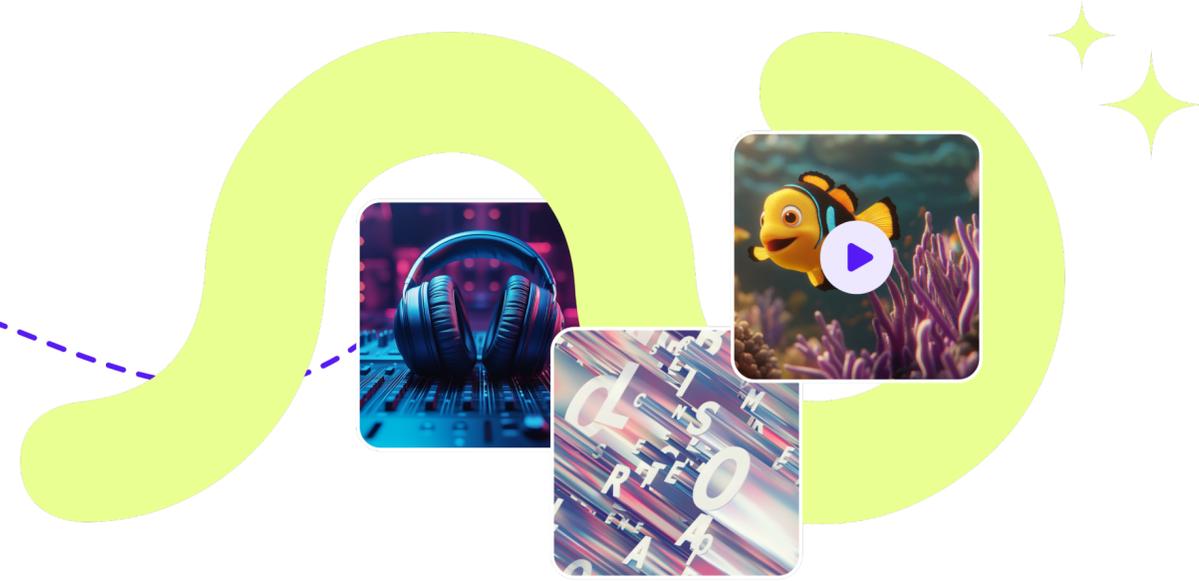


学生は、決められた計画に沿ってではなく、Adobe Express、Firefly、Creative Cloudなどのツールを初めて体験して、キャリア形成に役立つツールに出会うことが多々あります。これは、一般教養の授業や専攻分野ではない導入レベルの授業でよくあることです。

こうした初期の出会いは、学生の自己認識や可能性の認識を形成しうるものであり、学生はアイデアを表現したり、興味・関心を探求したり、授業内容を現実世界の可能性に結び付けたりできる新たな方法を手に入れることになります。

調査データと学生の感想から、クリエイティブツールを使った経験が1回でもあれば、それが持続的な変化のきっかけになりうるということがわかっています。学生からは、自信がついた、コミュニケーションスキルが上がったという声が聞かれ、学業やキャリアパスの方向性が以前より明確になったというケースも少なくありません。

教育機関が基礎レベルの授業にクリエイティブツールやAIツールを組み込んだ場合、学生は教育を単なる準備段階としてではなく、新しい未来を発見するためのプラットフォームとして捉えられるようになります。



“ 私はグラフィックデザインとデジタルメディアを専攻していましたが、Adobe Creative Skills のマイクロレデンシャルを受講して、AIがいかに大きなものを生み出せるかを知りました。そこで、専攻をコミュニケーションに変更しました。そのほうが汎用性が高いように思えたからです。AIにできることのすごさが授業でわかったので、対象範囲の広い専攻に変更しました。”

— Maryam さん(米国、コミュニケーション専攻)

84%

Adobe Expressを使用した現役学生の84%とキャリアの浅い社会人の96%が、授業で自分のアイデアをより効果的に伝えられるようになったと回答しています。これは、リーダーシップやコラボレーションにもつながるスキルです。

› **Creative Campusの利点:** Creative Campusの学生の88%が、Adobe Expressを使用したことで授業でのコミュニケーションが向上したと回答しています。これに対し、Creative Campus以外で同様の回答をした学生は79%でした。

89%

現役学生では89%、キャリアの浅い社会人では98%が、アドビのクリエイティブなAIツールによって、より創造的に自己表現できるようになり、自信とクリエイティブスキルの形成につながっていると回答しています。

› **Creative Campusの利点:** Creative Campusの学生の90%が、アドビのクリエイティブなAIツールによって自己表現力が向上したと回答しています。これに対し、Creative Campus以外で同様の回答をした学生は88%でした。

84%

専攻を変更したアドビユーザーの84%が、変更のきっかけはアドビのようなクリエイティブツールやAIツールだったと回答しており、初期にこうしたツールに触れることが、学業上有意義な方向転換のきっかけになりうるとわかりました。

› **Creative Campusの利点:** 専攻を変更したキャリアの浅い社会人のうち、Creative Campusの卒業生では89%、Creative Campus以外の卒業生では84%が同様の回答をしています。

80%

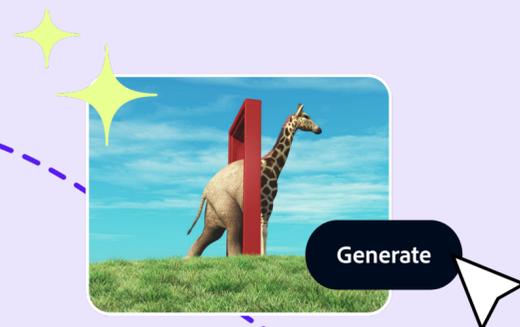
現役学生の80%が、将来の仕事ではアドビのようなマルチメディアツールやクリエイティブAIツールの経験が重要になるとの認識を持っています。

› **Creative Campusの利点:** この認識は、Creative Campusの学生(86%)のほうが、Creative Campus以外の学生(76%)やアドビツールの使用経験がない学生(45%)よりも高くなっています。

88%

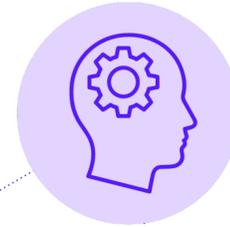
キャリアの浅い社会人の88%が、応募した仕事でアドビのマルチメディアスキルが評価されたと回答しています。

› **Creative Campusの利点:** この認識は、Creative Campus卒業生(95%)のほうが、Creative Campus以外の卒業生(84%)よりも高くなっています。



世界の状況

在学中にアドビのスキルを習得した新卒社会人のうち、現在の仕事でAIリテラシーが重要と回答した人の割合は、**ドイツ(91%)、フランス(91%)、オーストラリア(91%)、イタリア(90%)、日本(89%)**で世界平均の86%を上回っています。



アドビを使用している**オーストラリア**の学生の97%、**米国**の学生の96%が、仕事で成功するには批判的思考力が重要と回答しており、これは世界全体で見た91%を大きく上回っています。

英国の学生や新卒社会人の90%が、将来的には仕事でマルチメディアスキルやビジュアルコミュニケーションスキルの重要性がさらに高まるという認識を持っています。これに対し、世界全体では83%となっています。



日本とオーストラリアでは、新卒社会人の95%が、アドビのようなマルチメディアツールは仕事に不可欠と回答しており、これは世界平均の86%を上回っています。



学生が初めてクリエイティブツールに出会う場所

多くの学生にとって、クリエイティブツールとの出会いはデザインの授業ではなく、むしろ選択科目の授業やクラブ活動、個人的な趣味といった予想外の場所にあります。

実際、アドビツールを使用している大学1年生と2年生の69%が、大学生活の早い段階でアドビツールに出会ったと回答しており、その多くは明確にクリエイティブと題されていない授業だったといえます。

こうした初期の接点は、技術を習得することよりも、可能性を広げることに重点が置かれており、視覚的に説得力のある論文、マルチメディアの実験レポート、ビジネスプレゼンテーションなどで自分のアイデアを表現する機会を学生に与えるものです。

アドビツールは学生の専攻分野以外でもよく登場します。アドビのスキルを習得した学生と新卒社会人のほぼ4分の1が、専攻分野以外の授業で Adobe Express (27%)、Photoshop (28%)、InDesign (27%) などのツールを使用すると回答しています。

図3.1

学生がキャンパス内でアドビツールを使用する主な機会

	 Adobe Express	 Adobe Photoshop	 Adobe Creative Cloud コンプリートプラン
専攻分野の授業	#1	#2	#1
個人的な趣味	#3	#1	#2
将来のキャリアに向けた準備	#2	#3	#3
アルバイト・副業	#4	#4	#4
選択科目の授業	#5	#5	#5
インターンシップ	#7	#6	#8
学生クラブや課外活動	#6	#6	#6
学内のアルバイト	#7	#6	#7

“

私の専攻では、マーケティングに進みたい人がたくさんいます。

私はマーケティング志望ではありませんが、
(クリエイティブツールを使っていると)自分も(同級生と)
同じスキルが同じレベルで身につけていると感じます。

こうしたスキルを身につけたおかげで、
アドビツールを十分に使えるようになっていたので、
スキルがない場合よりも早く(他の学生に)
追いつけていると思います”

— Saraさん(英国、経営学専攻)

Adobe Creative Campusの教育機関では、アドビツールに触れる機会がさらに意図的に広く用意されています。アドビツールを使用できたCreative Campusの学生と卒業生は、大学のおかげで次のスキルが身についたと感じる可能性が著しく高くなっています。

› マルチメディアとビジュアルコミュニケーション

Creative Campusでは**85%**、Creative Campus以外では**69%**

› 創造的思考

Creative Campusでは**88%**、Creative Campus以外では**77%**

› コラボレーションとチームワーク

Creative Campusでは**88%**、Creative Campus以外では**79%**

アドビツールを早期に使用することで、利用範囲が広がるだけでなく、学生が直接的な価値を認識できる形でスキル形成を深めることができます。Creative Campusでは、この効果がさらに顕著となっています。

こうした成果が実証しているとおり、クリエイティブツールが予想外の授業や文脈でカリキュラムに取り入れられていた場合、学生はその後も長年役立つスキルを身につけ、そのスキルを学業やキャリア準備のあらゆる面で活用することができます。



キャリアにつながる 自信と目的意識

学生はポートフォリオを作成する前に、自分のスキル、クリエイティブな感性、将来の仕事でプラスの影響を与える力など、まず自分の最大の強みに自信を持つ必要があります。たいていの場合、自信はひっそりと育まれます。説得力のあるプレゼンテーションスライドをデザインしたり、グループのブレインストーミングを先導したり、アイデアに新たなビジュアル表現を加えたりしているうちに、自信が育まれていくのです。

多くの学生にとって、何か新しいものを作る機会は、自分を初めて単なる学習者としてではなく、新たな発想を伝える人間として認識するきっかけになります。

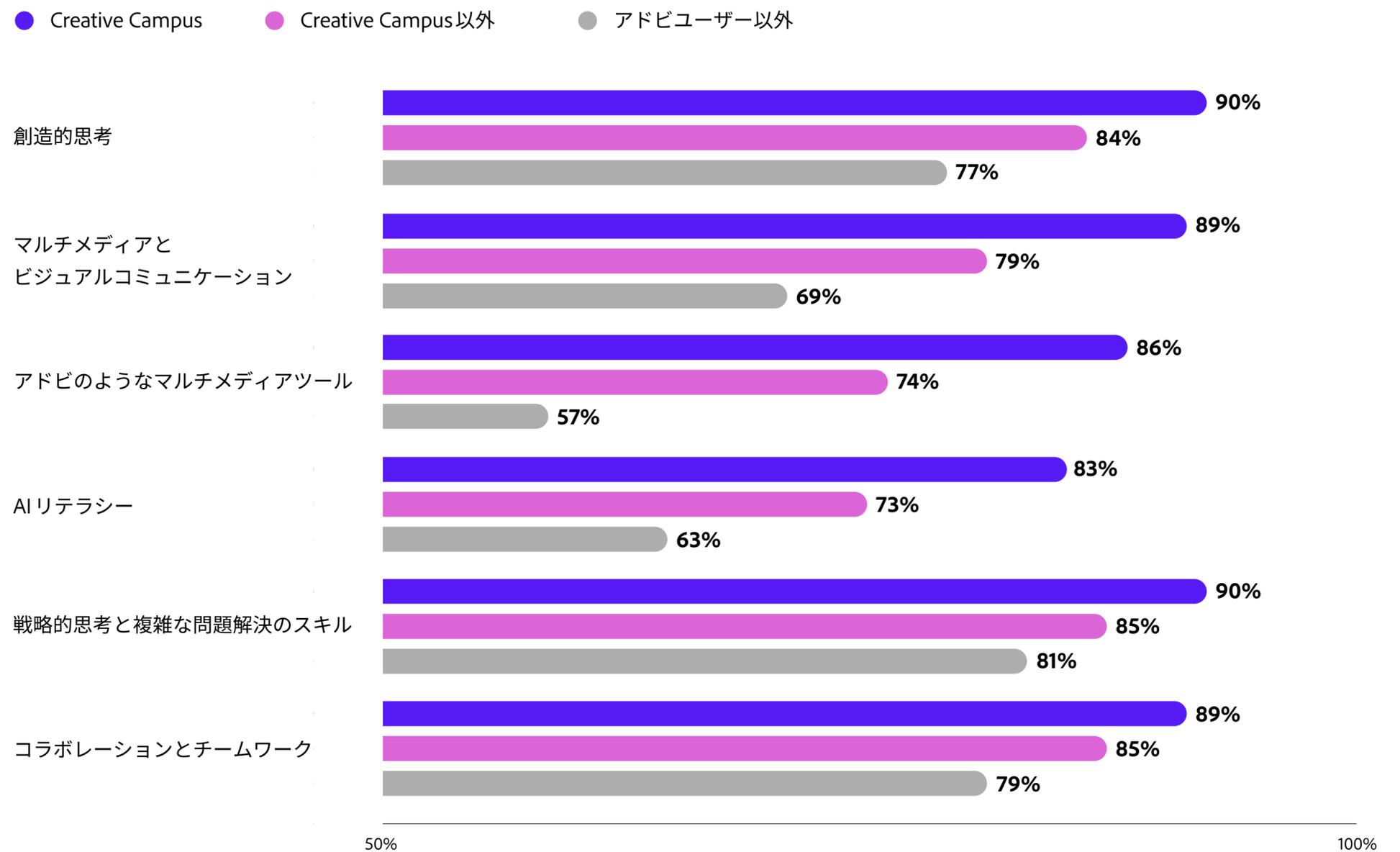
実際、Adobe Creative Campusの学生の88%が、Adobe Expressによって授業でアイデアをより効果的に伝えられたと報告しています。これに対し、Creative Campus以外で同様の回答をした学生は79%でした。

コミュニケーションに対するこの自信は、創造性に対する自信と表裏一体です。Creative Campusの学生では90%、新卒社会人では98%が、授業で自分のアイデアを効果的に伝える上でAdobe Expressが役立ったと回答しています。

図3.2

学生が将来に備えたスキルを身につけられる Creative Campus

次のスキルを身につける上で、大学はどの程度役立っていますか？



学生および新卒社会人が対象：Creative Campusの総数 n=985、Creative Campus以外の総数 n=1,815、アドビユーザー以外の総数 n=501

チームワークに関しては、アドビツールを使用している学生の**93%**が、大学のおかげでコラボレーションとチームワークのスキルが身についたと感じていると回答しました。これに対し、アドビツールを使用していない学生では同様の回答をした割合が**83%**でした。

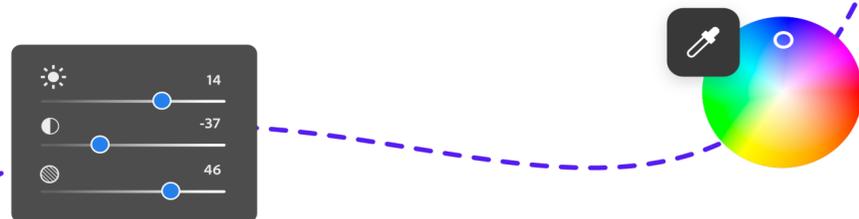
自信がつけば、学生の授業態度が変わるだけでなく、次にやりたいことも変わる可能性があります。自分のことをクリエイティブな表現ができる人間だととらえ始めると、学生は将来へ向けての新たな道筋を思い描き始めます。専攻を変更する学生もいれば、副専攻を選択したり、キャリア目標を一から見直す学生もいます。どの学部でも、アドビツールがこうした変化のきっかけとなることは少なくありません。

アドビツールを習得し、専攻やプログラムを変更した現役学生**39%**のうち、**79%**はその変更にあドビなどのクリエイティブツールやAIツールが影響したと回答しています。Adobe Creative Campusで専攻を変更した学生の場合、この数字は**89%**に跳ね上がります。



“編集方法とアドビの使い方を学んだことがきっかけで、(もっとそれを)学びたいと思うようになりました。上達すれば、趣味にしてもいいし、副業にできるかもしれません”

— Abdullahi さん(英国、ジャーナリズム専攻)



Adobe Creative Campus 訪問記： テキサス大学サンアントニオ校

テキサス大学サンアントニオ校(UTSA)は、長年にわたる Adobe Creative Campus のパートナーであり、学生の成果を向上させる革新的なアプローチを継続的に模索しています。UTSA は学生が新卒採用市場で注目されるための支援策のひとつとして、アドビのマイクロクレデンシャルの取得を学生に奨励しています。この認定資格は、魅力的なプレゼンテーションのデザインや、生成 AI を使用したビジネスプレゼンテーションの作成など、需要の高いスキルを習得していることを示すものです。

通常のアドビ認定コースは、何週間もの学習と実習を経てアドビアプリの専門知識を習得するものですが、マイクロクレデンシャルはそれとは違い、短い動画の編集、プレゼンテーションのデザイン、生成 AI を使用した画像作成など、特定の制作タスクに絞って認定します。わずか数時間で完了し、完全に自分のペースで進められるため、忙しい学生でも簡単に学習をスケジュールに組み込むことができます。



“ マイクロクレデンシャルを取得することで、学生は様々なキャリアパスを模索し、専攻分野を超えて学びを深めるとともに、大学での経験と将来の機会を豊かにする貴重なスキルを身につけることができます”

— Claudia Arcolin 氏 (UTSA、教育学修エクスペリエンス担当エグゼクティブディレクター)

UTSAの学生はアドビのマイクロレデンシャルを通じて、思わず目をとめずにはられないSNSマーケティングコンテンツの作成など、12種類の主要なデジタルスキルとクリエイティブスキルを習得できます。各コースとも、最後は実践的な課題に取り組み、経験としての学びを促しています。コース修了後、学生はデジタル認定書とバッジを取得し、自分のスキルの記録として履歴書やLinkedInプロフィールに記載することができます。

アドビスキルのマイクロレデンシャルは、1年生の必修科目である「学術研究の基礎と戦略」や、学問分野を問わず最も学習意欲の高い学業優秀者だけを受け入れる自由選択プログラム「オーナーズカレッジ」の参加者を対象としたオーナーズクラスなど、あらゆる専攻や学部の学生が受けられる授業にも組み込まれています。

オーナーズ101クラスの「専門能力開発」モジュールの中で、学生は生成AIのマイクロレデンシャルを用いて「求人応募の必須事項」または「製品提案プレゼンテーション」のいずれかを完成させ、キャリアのスタートに役立つスキルを学びます。一方、「スキル開発」モジュールでは、「プレゼンテーションのデザイン」または「ショート動画によるストーリーテリング」のマイクロレデンシャルを用い、自分のコミュニケーションスキルを強化する方法を学びます。

“ オーナーズカレッジではアドビソフトウェアを活用し、学生が習得したスキルや制作物を際立たせてデジタルリテラシーを示せるようにしています。マイクロレデンシャルは、学生が職業目標に沿った特定のスキルを習得できるようサポートする方法としても、そのスキルを有効にアピールする話し方を指導する方法としても最適です”

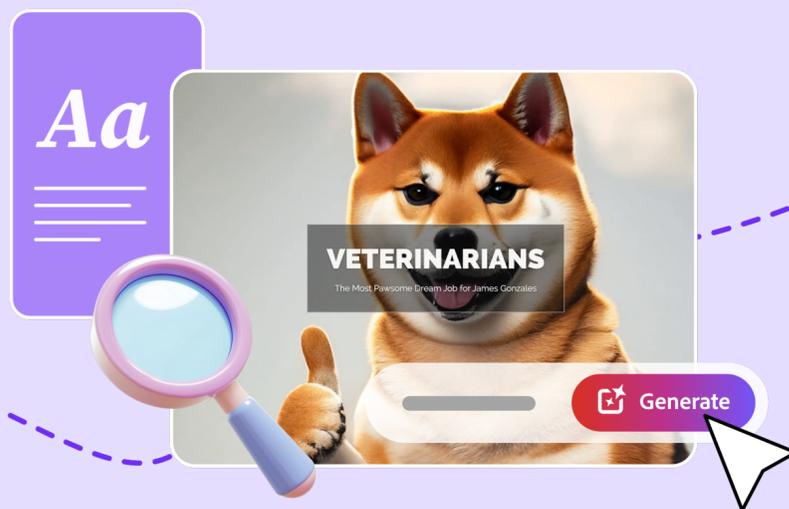
— Alegria Lozano 助教授 (UTSA オーナーズカレッジ、カウンセリングディレクター・実務担当)



さらに、Cindy Roberts 助教授は、数学の概念が現実世界にどのように現れるかを学生が理解できるように、アドビソフトウェアとマイクロ credenシャルを推奨しています。医学や生物学などの分野に興味のある学生向けに設計された授業「生物科学のための微積分」の一環として、Roberts 助教授は学生に、選択した分野で考えられる微積分の応用例を示す Adobe Express ページをリンクして、ミニ web サイトを作成する方法を指導しています。

学生はプロジェクトに取り組む前に「プレゼンテーションのデザイン」のマイクロ credenシャルを修了し、数学の概念を明確かつ説得力ある方法で伝えるために必要なスキルを身につけるため、Roberts 教授は他のトピックに専念して指導することができます。

生物学専攻の学生 Alessia Valdes さんは、理論上の患者に対する抗生物質の投与速度を微分方程式で計算する方法を説明するために、Adobe Stock の画像、グラフ、オリジナル絵文字を追加しました。また、音楽教育を学ぶ学生の James Gonzales さんは、動物をテーマにした画像と併せて、架空の動物病院が時間の経過とともに成長する様子を表す方程式を使用しました。



“テクノロジーはどんどん変わるので、学生が将来の職業で何を期待されるかは誰にもわかりません。マイクロ credenシャルは、今後も新しいスキルを学び続けて職場に貢献できるという自信を学生に与えてくれます”

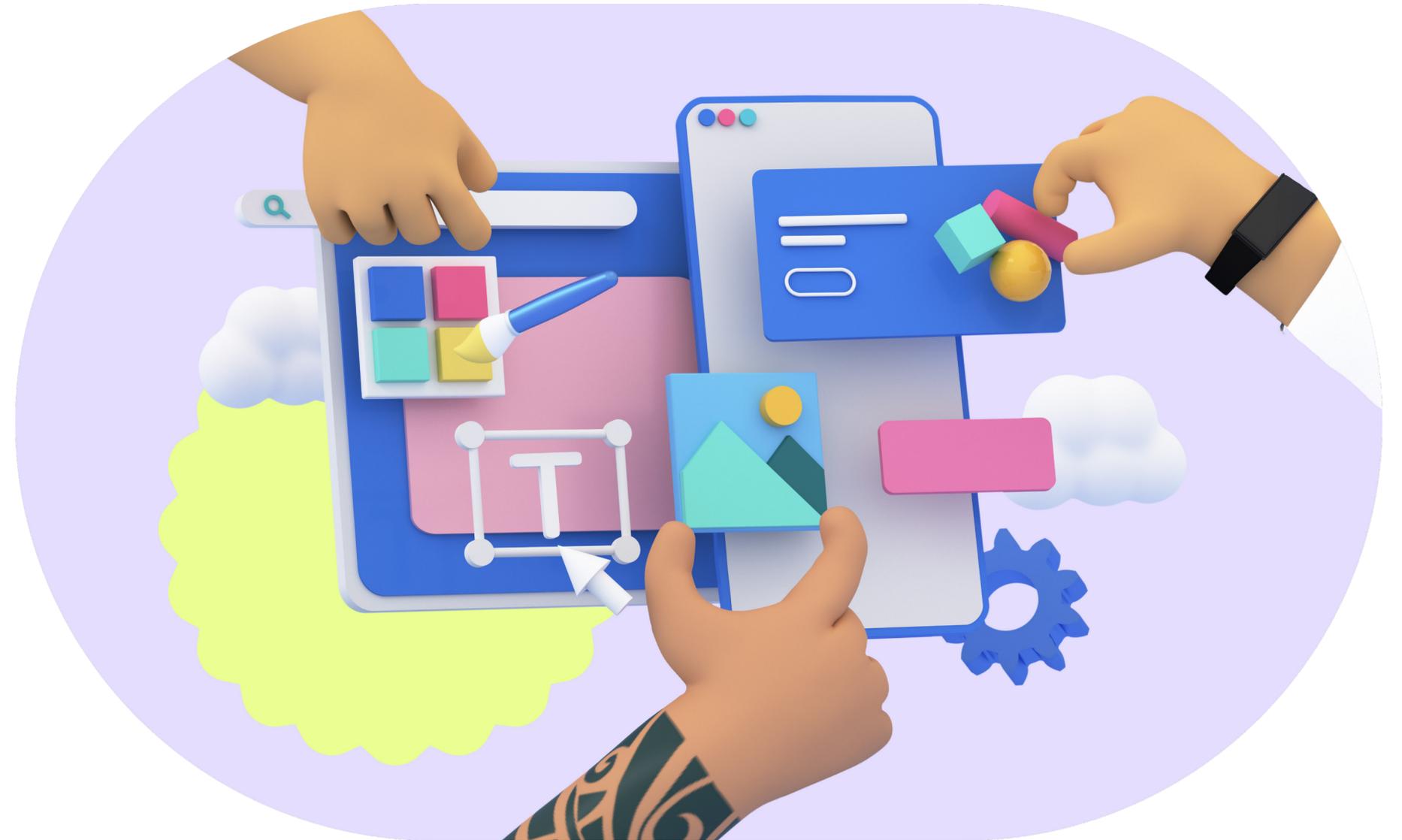
— Cindy Roberts 助教授 (UTSA、数学実践担当)

まとめ

一般教養科目や導入レベルの専攻科目にクリエイティブツールとAIツールを受講要件として取り入れると、学生の自己認識を大きく変化させることができます。

早い段階でこのような経験をすることで、それがマルチメディアスライドの作成であれ、あるいはデータの視覚化であれ、学生は受け身の学習者から能動的な作成者へと変わり、自分の創造性やコミュニケーションスキルに自信を持てるようになります。

アカデミックリーダーにとって、これはカリキュラムのインフラを強化する重要な機会となります。アドビのようなツールを様々な学部に取り入れることで、教育機関は学生の主体性を促して満足度を高める道を開くことができ、最終的には学業とキャリアにおいて歩を進めていく力を学生につけさせることになります。



アドビのクリエイティブスキルとAIスキルを使って採用担当者にアピール

学生が学ぶのはアドビツールだけではありません。必須のスキルと能力を発揮する方法も学びます。

授業内容が洗練されたポートフォリオやマルチメディア履歴書、業界で認められたマイクロ credenシャルへと進むにつれて、学生のクリエイティブスキルとAIスキルは教室の外でも通用する明確な指標となっていきます。学生はインターンシップや就職の面接に挑む際に、新卒採用担当者が期待する事柄に直結する話を明確に、自信をもって語れるようになるのです。

この章では、スキルを形成する段階からスキルをアピールする段階への移行について説明します。その中で、学生たちがどのように授業成果や課外活動、個人的なプロジェクトを貴重なキャリア資産としてまとめ上げ、どのようにマイクロ credenシャルとLinkedInプロフィールを使って採用担当者の目にとまりやすくし、どのようにアドビ活用のプロジェクトを中心として面接プレゼンテーションをおこなっているかを考察します。

結果的に、新しい形でキャリアに備えられるようになった学生たちは、創造性、コミュニケーション力、AIスキルのおかげで早くから採用担当者の目にとまり、早く採用が決まって、初日から職場で有意義な貢献ができるようになります。



91%

キャンパス内で Adobe Express または Creative Cloud を使用していたキャリアの浅い社会人の91%が、履歴書でそのスキルを強調していました。

› **Creative Campus の利点**: Creative Campus の学生の85%がこうしたスキルを強調する予定であるのに対し、Creative Campus 以外で同様の回答をした学生は77%でした。

94%

キャリアの浅い社会人の94%が、就職面接でアドビツールとクリエイティブスキルについて語り、それが採用につながりました。

› **Creative Campus の利点**: Creative Campus の学生の88%が、面接でアドビスキルを強調する予定です。これに対し、Creative Campus 以外で同様の回答をした学生は75%でした。



就職面接でアドビスキルに言及するかどうかについては、する予定であると回答する傾向が最も高かったのが英国の学生で**89%**、これに対して世界全体では**81%**となっています。



アドビスキルはどの専攻でも求人応募書類に記載されており、履歴書にアドビツールやクリエイティブスキル、マルチメディアスキルの記載を予定している学生の専攻は、**ビジネス (85%)**、**STEM (84%)**、**芸術・人文科学 (80%)**、**社会科学 (74%)** などとなっています。



72%の現役学生と**87%**のキャリアの浅い社会人が、マイクロ credenシャルは内定獲得の鍵と考えています。

“教授やキャリアアドバイザーから、業界ではアドビのツールが使用されていると聞きました”

— Katharyn さん (米国、戦略コミュニケーション・ジャーナリズム専攻)



ポートフォリオ、プロジェクト、 社会人としてのブランディング

学生が Adobe Express と Creative Cloud を使ってできることは、履歴書のフォーマット設定だけではありません。自分はどんな人間か、どうなりたいのかを示す、ダイナミックなポートフォリオや応募書類を作成できます。

アドビツールを使用すれば、マルチメディア履歴書やプロジェクト web サイトから、プレゼンテーション資料や自己紹介動画まで、あらゆる学部の学生が学業の成果や個人的な活動、課外活動をキャリア資産の形に変えて、社会人としてのブランディングをおこなうことができます。これは多くの学生にとって、初めて自分のスキルが可視化され、認められたと感じる機会になります。

“

採用担当者は経験をととても重視しているように感じます。
今の就職市場では学位だけでは不十分だと思います。
採用側が知りたいのは、自分が取り組んでいることに
自信があるかどうかなのです”

— Hamzah さん (英国、デザイン専攻)



80%

学生の80%、キャリアの浅い卒業生の**93%**が、
課外活動を将来のキャリア目標や情熱の対象
にリンクさせる上で、アドビのようなクリエイ
ティブツールが役立ったと回答しています。

85%

学生の85%、キャリアの浅い卒業生の**92%**が、
履歴書やポートフォリオに記載できるスキル
や経験を築く上で、アドビのようなクリエイ
ティブツールが役立ったと回答しています。

成績だけではない パーソナルブランディング

就職活動をする学生にとって、パーソナルブランディングの機会は生活のあらゆる場面にあります。本調査では、アドビツールを使用している学生のうち、ツールを趣味に使用していると答えた学生が78%、副業が78%、課外活動が66%でした。

人事担当者が知りたいのは、学問上の関心を超えたところの、候補者の気概、創造性、適応力、情熱です。学生団体向けのSNSコンテンツのデザインから、フリーの副業としてのビジュアル制作まで、学生(特にCreative Campusの学生)は教室の外の実社会でも経験を積み、その経験を即戦力としてアピールできる洗練されたストーリーを作り上げています。

このような制作物は、自分らしさ、自主性、影響力を表す生きたポートフォリオになります。学生は単に「自分はこれをやりました」と言うのではなく、なぜ、どのようにやったのかを語り、さらなる成長のポテンシャルがあることを示すことができます。

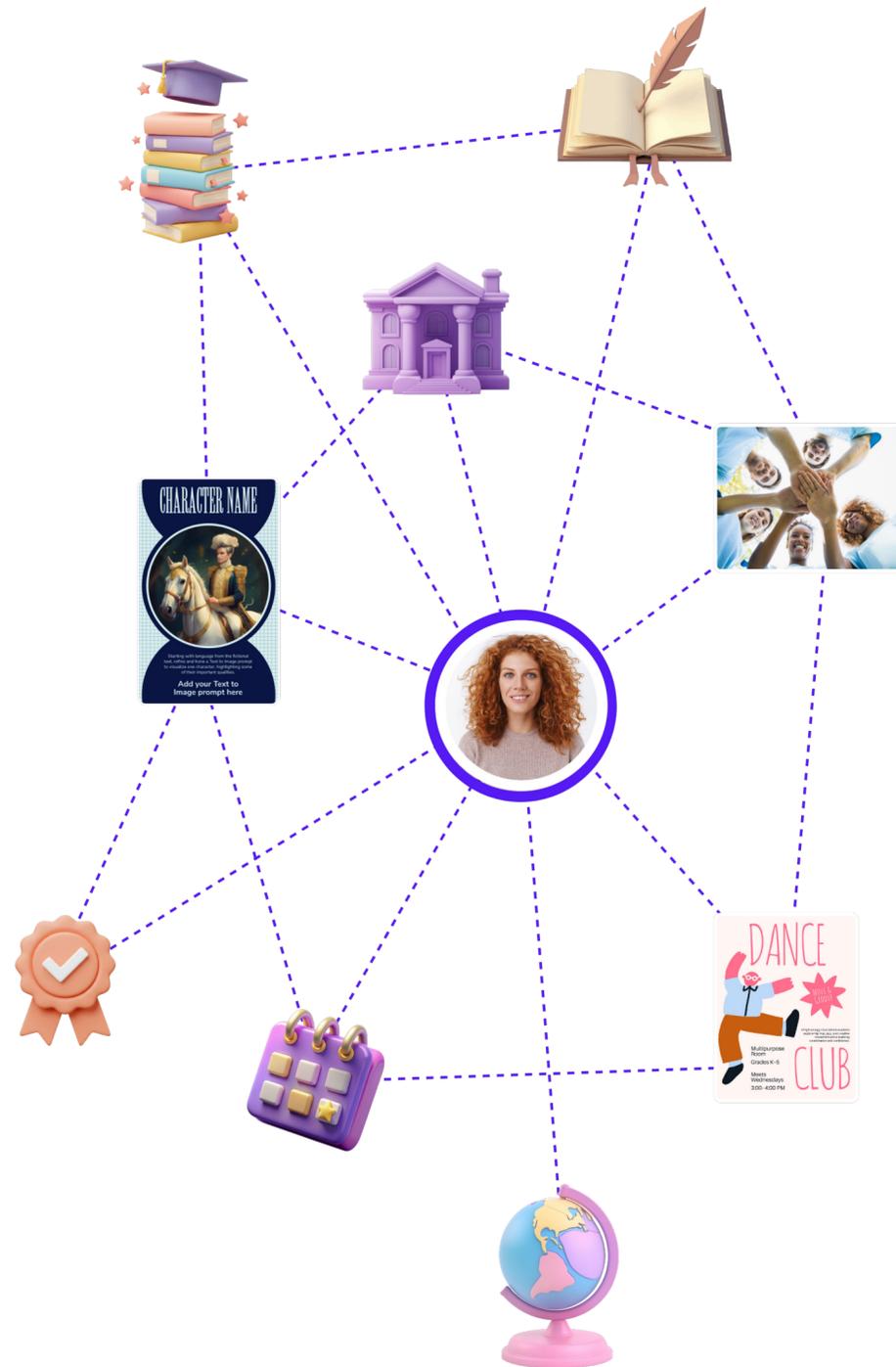


“ (クリエイティブツールは) 大学だけでなく、ビジネスにも使えると思います。私はYouTubeチャンネルで使っていて、とても役に立っていますから... 私はSEOタイトルタグの設定に(クリエイティブツールを)使っていますが、スクリプト記述に使ったり、自分にできることのアイデア探しやトレンドのチェックに使うこともあります”

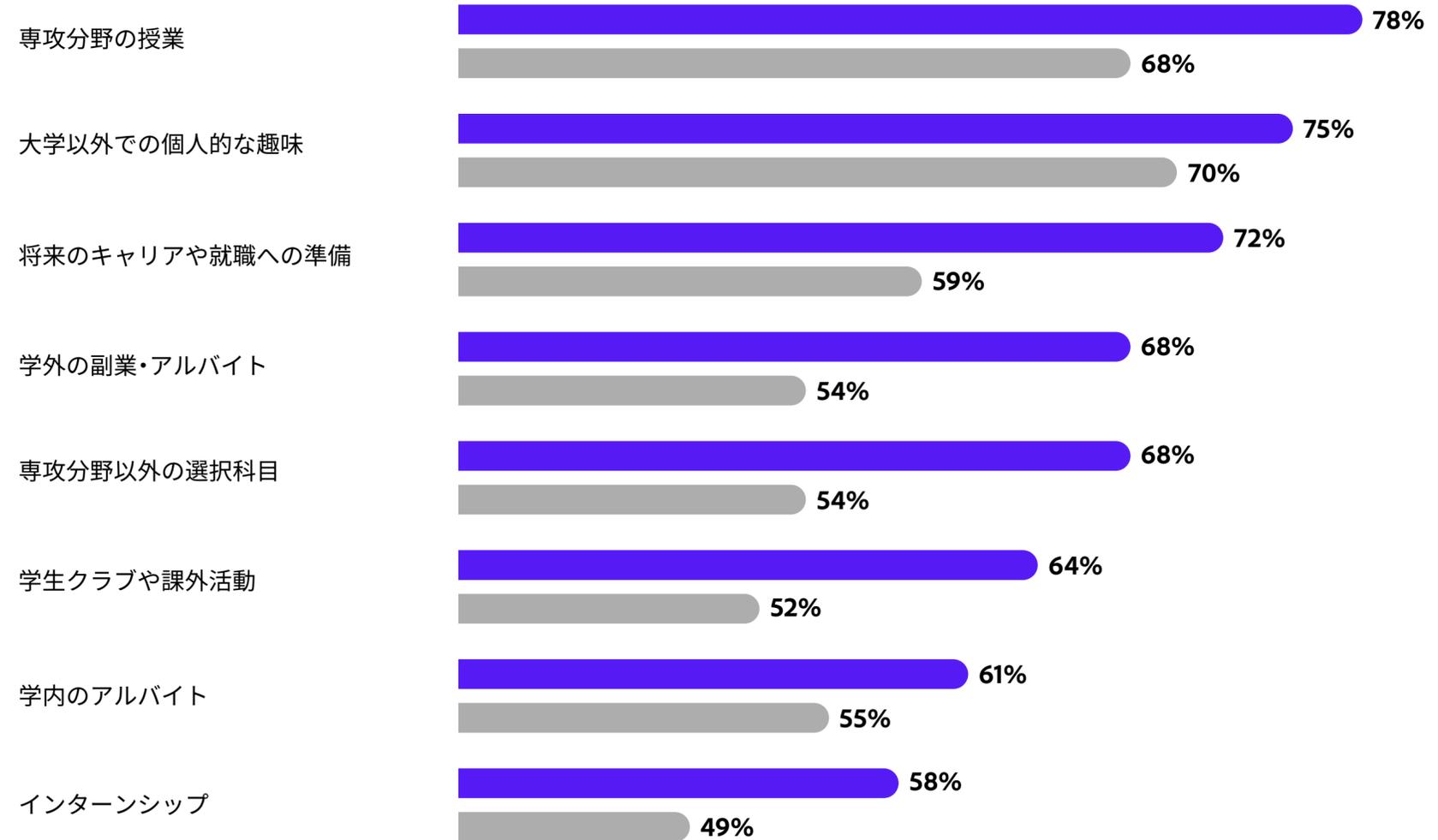
— Aila さん (米国、宗教学専攻)

図4.1

学生がアドビスキルを活かしている主な用途:授業、クラブ活動、キャリア



● Creative Campus ● Creative Campus以外



50%

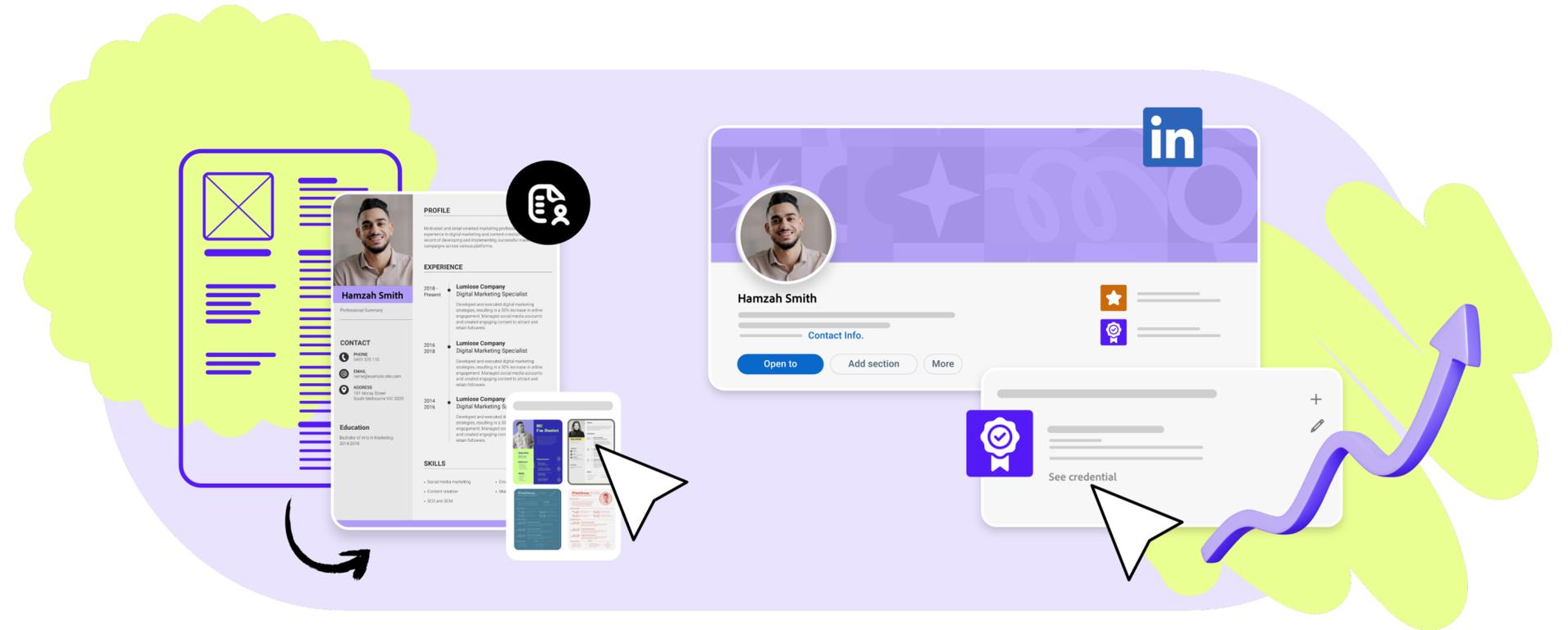
100%

履歴書、LinkedIn、成功する面接

現在、学生やキャリアの浅い社会人は、クリエイティブスキルについて盛んに語るようになってきました。履歴書でアドビツールやクリエイティブスキル、マルチメディアスキルを強調していると答えた人は、なんとキャリアの浅い社会人では91%、学生では80%にのぼり、こうした能力がますますパーソナルブランディングや個人アピールで中心的なものになってきたことを示しています。

Adobe Creative Campus に在籍したかどうかにかかわらず、Adobe ExpressやCreative Cloudのユーザーは履歴書でそのスキルを強調した、あるいは強調する予定と答えています。また、学生は就職活動への対策の一環として、アドビスキルの公式認定資格もアピールに使っています。

アドビスキルの認定資格を持つ学生のうち、約69%が既にその資格を履歴書に記載しており、Creative Campusの学生では49%、Creative Campus以外の学生では44%が、LinkedInでアドビスキルの資格を公開していると述べています。学生はこうしたツールをキャリア資産と見なしており、急速に進化する採用市場において、仕事に向けて準備ができていること、スキルがあること、自己認識がしっかりしていることを示すためにツールを利用しています。



“ 私が身につけたいのは、会社でうまくやっていくのに役立つ管理スキルや応用可能なスキルです”

— Hamzah さん(米国、デザイン専攻)

キャリアの浅い社会人は、このような選択には効果があると言います。回答者の多くが、アドビの経験を示すことで面接の機会を確保できたと述べています。一方、学生はポートフォリオ、ビジュアル、認定資格を前面に出すことで、採用担当者に高い関心を持ってもらえると言っています。

Adobe Express、Firefly、Creative Cloudを使用している学生からは、面接のパフォーマンスが向上し、もっと自信が持てるようになり、具体的なプロジェクトや経験の話ができるようになったとの報告もあります。ここまでくれば、面接で学生は単に質問に答えるのではなく、会話の主導権を握れるようになります。

“

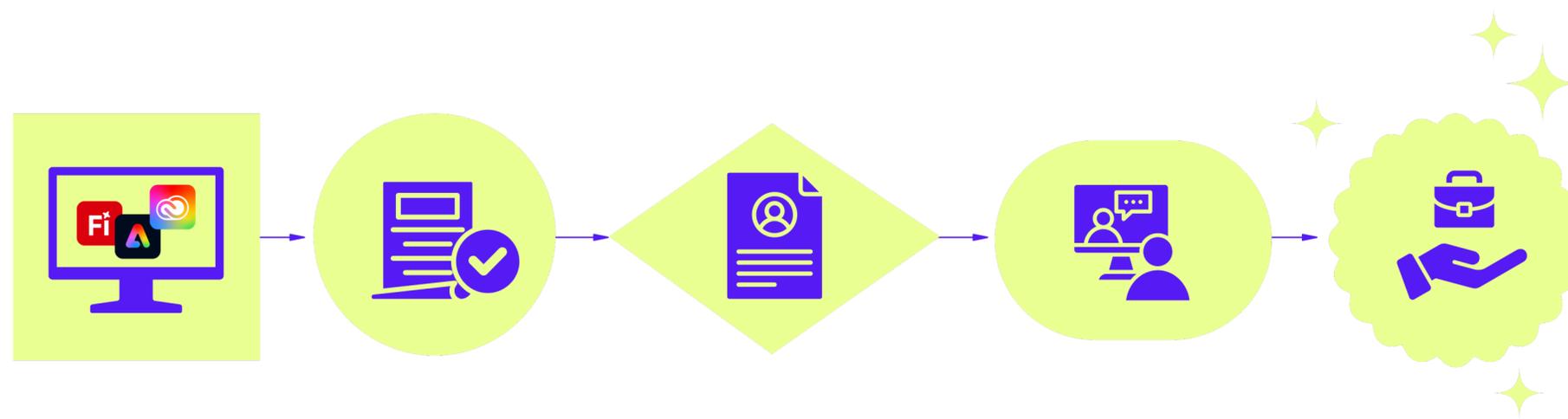
どんなソフトウェアを使っているかという、
私が使っているのはPhotoshopなどの
業界標準ソフトウェアなので、そのトレーニングが
必要ないことを示せて効果的です。
即戦力としてすぐに仕事ができますし、
会社はそれを求めているんです”

— Hamzah さん(英国、デザイン専攻)

Adobe Creative Campusの学生は、面接でアドビスキルについて話す可能性が大幅に高くなっています。Creative Campusでアドビツールを使用していたキャリアの浅い社会人のうち、96%が就職面接でアドビツールとクリエイティブスキルについて話したと回答しました。これに対し、Creative Campus以外に在籍していた社会人では91%でした。

“ これを使えば、あまりクリエイティブでない人や、まだAI環境にどう対応していいかわからない人が多い中で、大幅に優位に立つことができます”

— Lisa さん(米国、法学・心理学専攻)



Adobe Creative Campus 訪問記： ユタ大学

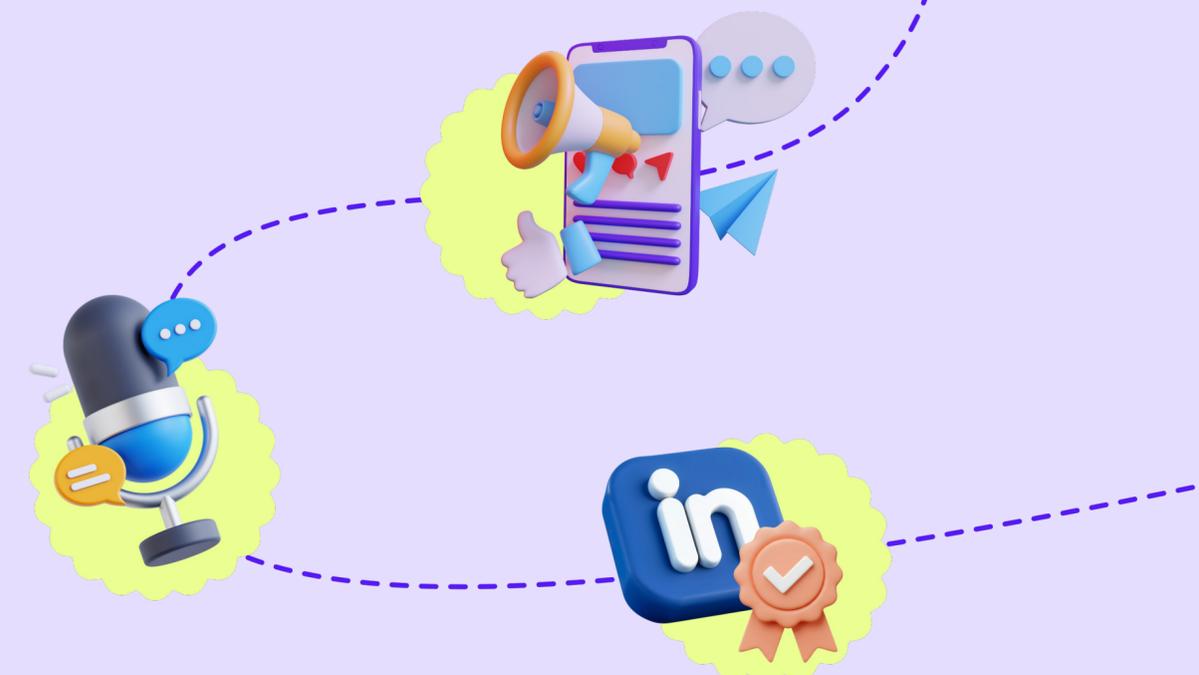
ユタ大学は、学生をキャリアに備えさせる取り組みの一環として、数年前から Adobe Creative Campus に加盟しています。学生が重要なデジタルスキルとクリエイティブスキルを習得し、その知識を将来の就職先にアピールできるように、同校では最近、アドビのマイクロクレデンシャルの取得を学生に推奨し始めました。

アドビが長年実施してきたアドビ認定プロフェッショナルの試験は、アドビアプリと業界スキルの専門知識を証明するためのものですが、アドビのマイクロクレデンシャルは、ソーシャルメディアコンテンツの作成やポッドキャストの制作など特定のタスクに絞ったもので、すべてに安全・信頼のアドビ生成AIを活用しながら、自分のペースで学習し、短期間で取得できます。

自分のペースで学べるコースはわずか数時間で修了できるため、学生は忙しいスケジュールに簡単に学習を組み込むことができます。コース修了後、学生はデジタル証明書とバッジを取得し、これをスキルと専門知識の証明として LinkedIn に掲載できます。ユタ大学では、マイクロクレデンシャルを導入してからの2年間で、認証件数が1,000件を超えました。

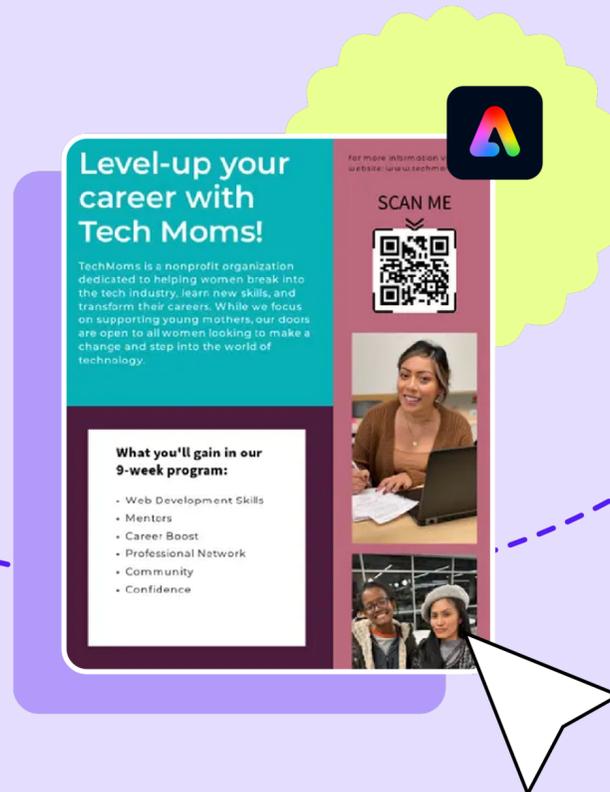
“アドビのマイクロクレデンシャルは、学生が必要なスキル習得の入り口として、厳選された内容に気軽に取り組めるようになっています。デザインの言語を理解し、スキルを活かしてインターンシップや仕事で効果的なコミュニケーションをおこなうための枠組みを学生に与えてくれます”

— ホリー・ジョンソン氏(ユタ大学、学修体験イノベーション&アウトリーチ担当副ディレクター)



過去数年間、ユタ大学のデイビッド・エクルズ経営大学院はソーシャルインパクトチャレンジを主催してきました。これは、学生たちがチームを組んで、webサイトやソーシャルメディア投稿などのデジタルストーリーテリング要素を作成し、現実世界の非営利団体が直面する課題の解決に貢献するものです。「学生が自分のアイデアやスキルを示すだけのものではありません」と経営・情報システム学部のChong Oh教授は言います。「地域社会にも有意義な影響を与えているのです」

今年は、Adobe Expressを使用してプロジェクトを作成する前に、少なくとも1つのマイクロ credenシャルの取得が参加者に義務づけられました。参加者は全員あわせて73件のマイクロ credenシャルを取得し、スキルを身につけた上で戦略的なマーケティングキャンペーンを作成しました。これはTech-Momsという、ユタ州を拠点とする非営利団体のキャンペーンで、Tech-Momsはワーキングマザーを応援し、キャリアアップして技術分野で働くために必要な専門スキルの習得をサポートしています。マイクロ credenシャルを取得したことで、参加チームはAdobe Expressをすばやく習得し、アイデアの切磋琢磨に多くの時間を費やすことができました。



“ 本校の学生が競い合うプレゼンテーションの質の高さに、Tech-Momsは感銘を受けていました。学生の学びにAdobe Expressを取り入れ、デジタルストーリーテリングのスキルに対する自信をつけさせるには、マイクロ credenシャルが最適な方法です”

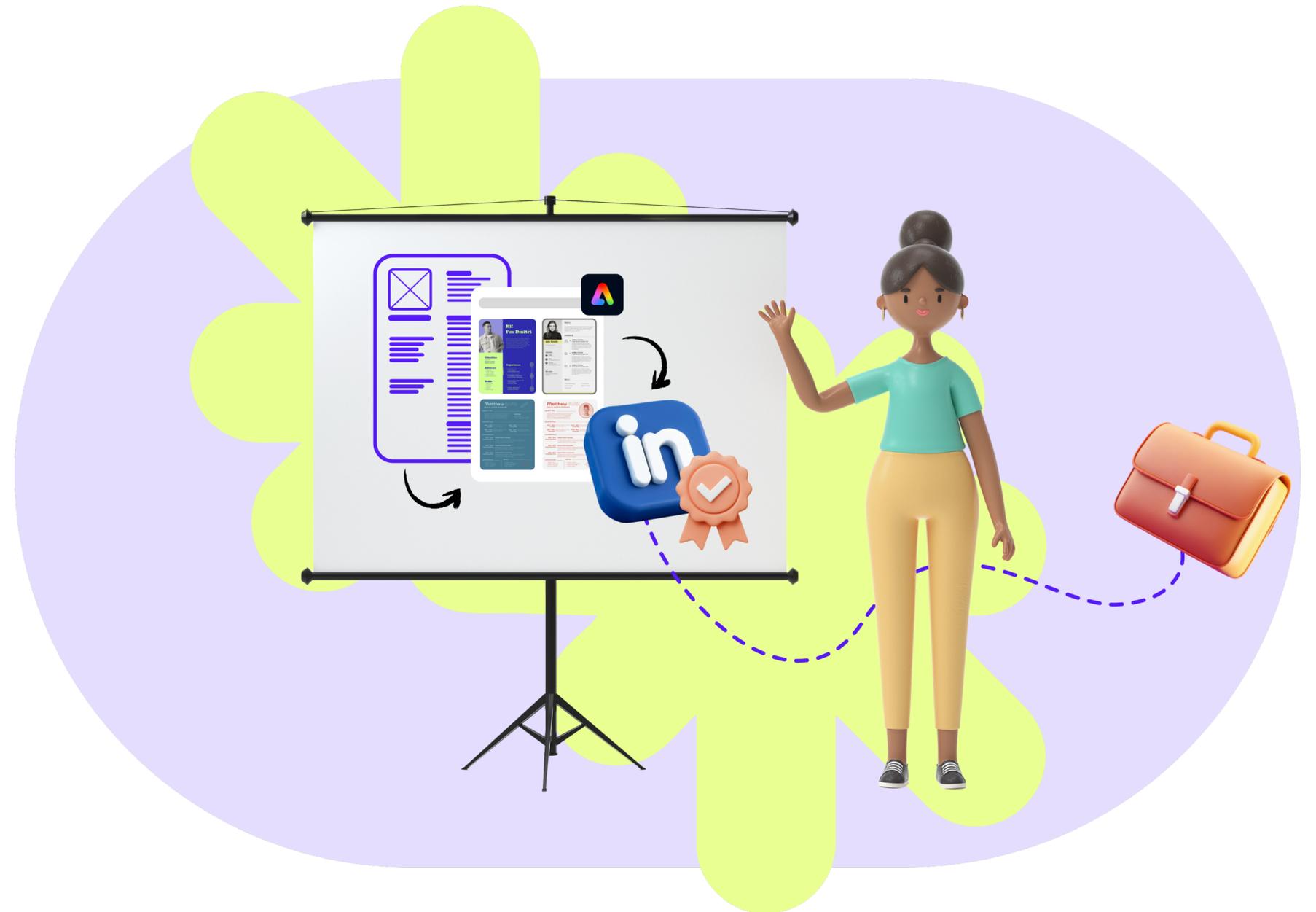
— Tamar Castillo氏(ユタ大学、学修体験担当マネージャー)

まとめ

キャリアへ向けての準備は、卒業のずっと前に教室で始まります。課題にアドビツールを使用すれば、学生は授業内容を学ぶだけでなく、貴重なキャリア資産も形成できます。洗練された履歴書からパーソナライズされたポートフォリオ、AIを活用したLinkedInプロフィールまで、Adobe ExpressやFireflyなどのプラットフォームを利用することで、学生は競争の激しい就職市場で注目を集められます。

Creative Campusの学生はアドビのプロジェクトや認定資格をアピールする可能性が高く、そうすることでスキルや潜在能力が採用担当者の目にとまりやすくなります。同じく重要なこととして、学生が自分のことを語る時にも、明確かつクリエイティブで信頼性のある話ができるという自信をつけることができます。

現在の採用市場をうまく渡っていくには、このように自分でパーソナルブランディングをおこなう意識がきわめて重要です。これは大学にとってみれば、クリエイティブスキルやデジタルストーリーテリングといった、成功に不可欠なスキルを取り入れて、キャリア準備を定義しなおすということです。



アドビスキルのある学生は 早期に採用決定 — クリエイティブ キャンパスが道を開く



就職は学生の人生で最も重要な瞬間のひとつであり、アドビスキルを習得して社会に出る卒業生は目に見えて有利なスタートを切っていることがデータで示されています。

これらの学生は、クリエイティブスキル、AIリテラシー、自信を持って自分の成果をアピールする力を併せ持つことで、スタート時の勢いがすべてを左右しかねない今の時代に、同世代の学生よりも(場合によっては何か月も)早く採用を獲得しています。

この章では、早期採用から昇給、昇進、長期的なキャリア満足度の向上に至るまで、アドビツールによるキャリア初期の成功促進について考察します。

エビデンスから明らかなおとおり、教育機関が全学部アドビツールを取り入れた場合、それは単に学生が授業課題を終わらせるための支援をしているだけでなく、学生にスキル、資格、自信を身につかせて、就職活動で優位に立ち、早期に採用を獲得し、就職後に成功できるようにしていることとなります。

 重要ポイント



キャンパスでアドビツールを使用していたキャリアの浅い卒業生の**72%**(Creative Campusの卒業生では**79%**)が、卒業後6か月以内に正規雇用されています。

› アドビツールは迅速な就職につながります。Creative Campusの学生は、大学でツールとサポートを利用できるおかげで、クリエイティブツールが早期採用を実現する働きをしています。



ビジネス、コミュニケーション、デザインなどの学部では、Adobe Creative Campusの卒業生が、Creative Campus以外でアドビツールを使用していた学生よりも、**最大15%**早く最初の内定を獲得しています。

› Creative Campusでビジネスを専攻する学生たちは、卒業後3~4か月で最初の内定を獲得しました。これは、Creative Campus以外でアドビツールを習得した学生よりも15%早くなっています。

› Creative Campusでコミュニケーションとデザインを専攻する学生たちは、卒業後3.7か月で最初の内定を獲得しており、これはCreative Campus以外でAdobeツールを習得した学生よりも14%早くなっています。



キャリアの浅い社会人の**41%**が、在学中に取得したアドビスキルのマイクロクレデンシャルのおかげで給与が高くなったと述べており、**37%**はマイクロクレデンシャルや認定資格が直接の理由で昇進したと言っています。



採用までの期間と就職の優位性

競争の激しい現在の就職市場で、ものを言うのはスキルです。アドビスキルを身につけた学生は、すぐにキャリアをスタートする準備ができています。

アドビスキルを身につけた卒業生の**80%**が、卒業後6か月以内に正規雇用を確保しており、採用側でクリエイティブスキルとAIスキルの価値認識が高まってきたという強い傾向を示しています。

こうした優位性がさらに顕著なのが、ビジネス、コミュニケーション、デザインなどの全学部でカリキュラムにアドビツールを取り入れている Adobe Creative Campus です。Adobe Creative Campus の卒業生は、Creative Campus 以外でアドビツールを使用していた学生よりも、最初の内定を最大15%早く獲得しています。

“

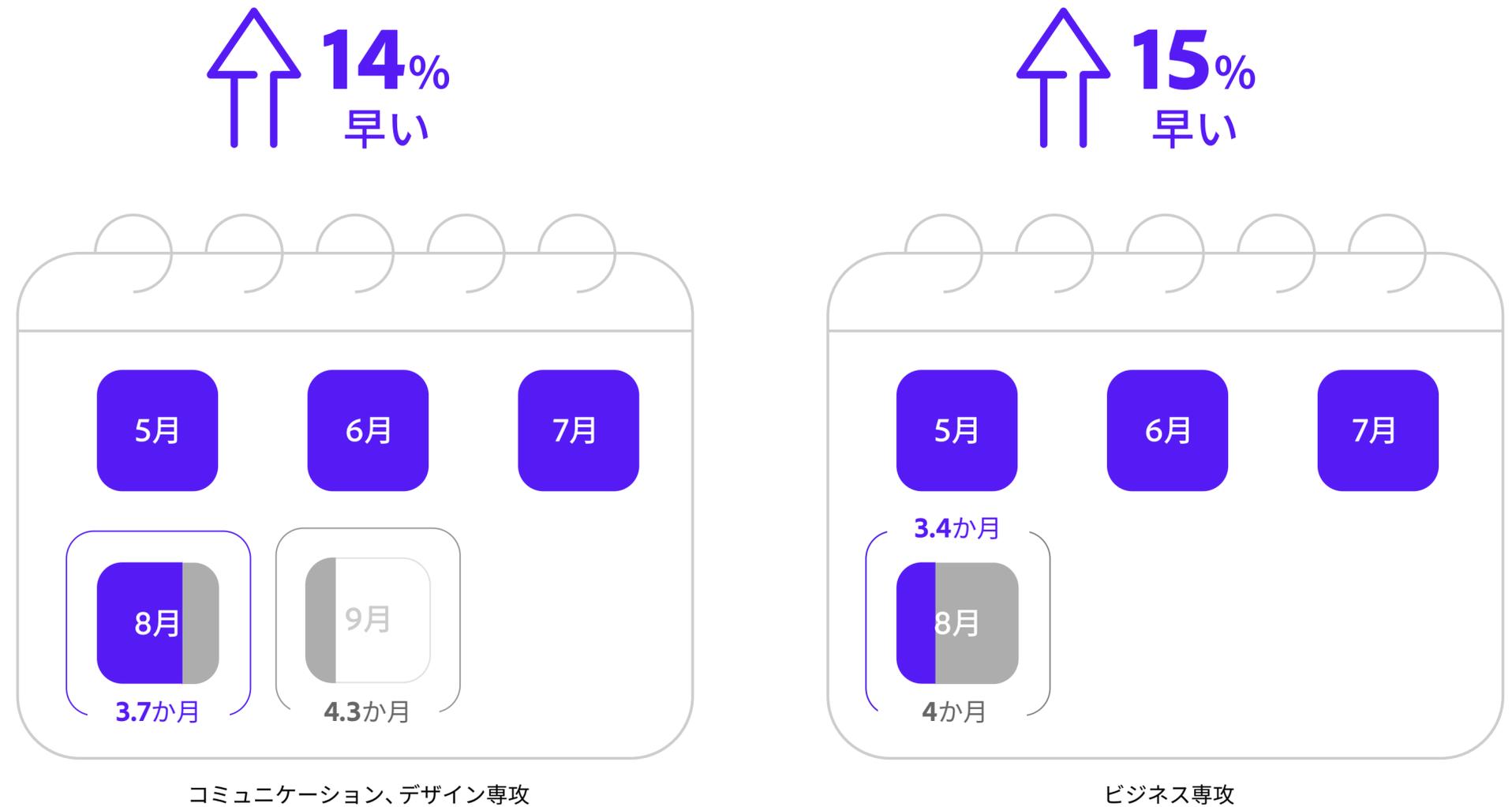
履歴書にアドビツールとAIツールを記載したのは、
そういうツールを使いこなせるようになるまで
企業が手間暇かけてトレーニングする必要がある人たちと
差別化できるから。スキルがあれば、就職活動で有利です”

— Kathryn さん(米国、戦略コミュニケーション・ジャーナリズム専攻)

図5.1

就職が早く決まる Creative Campus 卒業生 学生が卒業後に正規雇用の仕事に就くまでの月数

● Creative Campus ● Creative Campus 以外



給与、昇進、早期昇進に有利

初任給は業界によって大きく異なりますが、アドビツールを習得し、アドビのマイクロクレデンシャルを取得している学生は、プラスで資格を持っていることの金銭的価値を実感する可能性が高くなります⁵。実際、キャリアの浅い社会人の**41%**はアドビクレデンシャルの取得が高い給与につながったと答えています。また、クリエイティブスキルの資格やAIの資格は社会に出てからさらに値打ちが上がると思うか、という設問に対しては、学生も社会人も同様に圧倒的な同意を示しています。学生では**74%**、キャリアの浅い社会人では**84%**が、こうした資格のある人は資格のない同僚よりも高い報酬を得るに値すると考えています。

このような認識は、実際の結果に通じています。アドビの資格を取得しているキャリアの浅い社会人は昇進の可能性が大幅に高くなっており、**58%**が現在の仕事に就いてから昇進したと回答しています。これに対し、アドビの資格がない同世代は**37%**となっています。この数字から、こうしたツールが単に扉を開くだけでなく、組織における信頼と上昇にも役立っていることがわかります。

この点で何重にも有利なのが、Adobe Creative Campusの卒業生です。Creative Campusの卒業生は、Creative Campus以外の教育機関の卒業生よりも、早く昇進する可能性が高くなっています。実際、Creative Campusの卒業生の**53%**が、現在の仕事に就いてから昇進したと答えています。これに対し、Creative Campus以外では、学内でアドビスキルを取得していても、同様の回答をした卒業生は**47%**でした。明らかな傾向として、クリエイティブスキルとAIリテラシーに投資している教育機関は、キャリアの早い段階で躍進できる卒業生を輩出していると言えます。

アドビスキルは学生を採用に導くだけではありません。意義を感じられる仕事、方向性が合っていると思う仕事、長く続けられる仕事を見つける役にも立っています。在学中にアドビツールを使用していたキャリアの浅い社会人は、大多数が、大学での経験と現在の仕事の方向性がかなり一致していると回答しています。実際、**78%**が創造性や批判的思考、リーダーシップなどのソフトスキルを活かす機会が月に1回以上あると回答しており、業務をこなすだけでなく有意義な貢献をする力が、こうした卒業生に備わっていることを明確に示していると言えるでしょう。

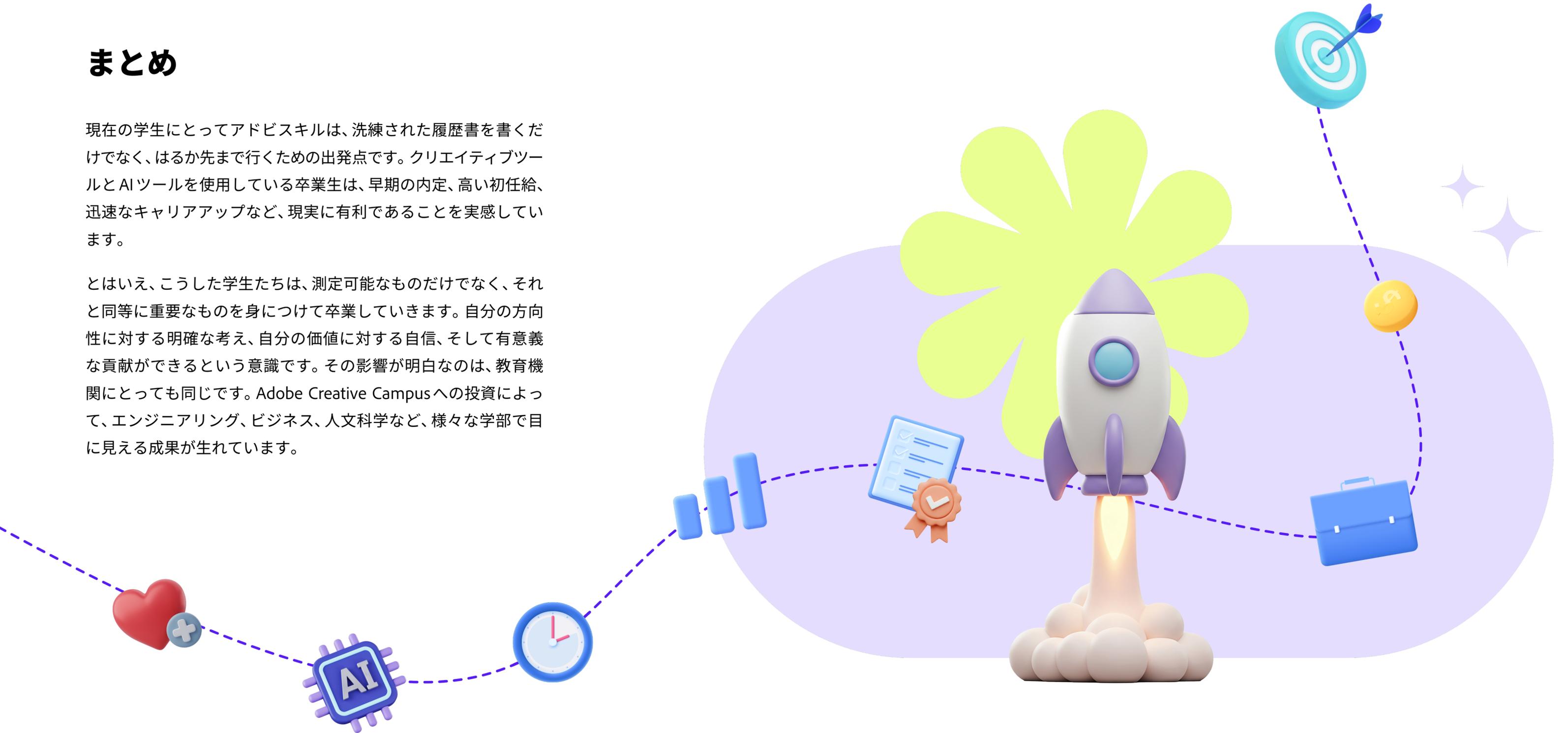
“ 私の大学は、コミュニケーションに少しでも関連のある分野を専攻するなら、アドビなどのクリエイティブツールを習得しなさいと熱心に奨励しているので、私も業界標準ツールを扱う準備はばっちりだと思います”

— Katharyn さん(米国、戦略コミュニケーション・ジャーナリズム専攻)

まとめ

現在の学生にとってアドビスキルは、洗練された履歴書を書くだけでなく、はるか先まで行くための出発点です。クリエイティブツールとAIツールを使用している卒業生は、早期の内定、高い初任給、迅速なキャリアアップなど、現実にも有利であることを実感しています。

とはいえ、こうした学生たちは、測定可能なものだけでなく、それと同等に重要なものを身につけて卒業していきます。自分の方向性に対する明確な考え、自分の価値に対する自信、そして有意義な貢献ができるという意識です。その影響が明白なのは、教育機関にとっても同じです。Adobe Creative Campusへの投資によって、エンジニアリング、ビジネス、人文科学など、様々な学部で目に見える成果が生れています。



アカデミックリーダーのための 重要なポイント



高等教育は重大な局面を迎えています。

教育機関は、優れた学問の府であるということだけでなく、学生の自信、スキル習得、キャリア早期の成功といった明確な成果を示すことも求められています。本レポートで繰り返し強調してきたように、大学がクリエイティブツールとAIツールに投資し、それを様々なプログラムや接点に組み込んだ場合、学生のパフォーマンス、キャリア準備、大学の有効性が目に見える形で向上します。創造性はもはや少数の専攻分野だけのものではなく、成功へ向けての基本要素となっています。

Creative Campusの教育機関は、既にその実りを収穫しています。Creative Campus加盟校の学生は、エンゲージメントが向上した、早期に内定を獲得できた、スキルに対する自信が深まったと回答しています。この最終章では、このような調査結果を上級リーダー向けの戦略的ロードマップにまとめています。このロードマップは、Creative Campusがそれ以外の大学をしのぐ成果を常に上げている理由を説明し、学術とテクノロジーの統合に向けた実践的なブレイブブックを示した上で、最後に大胆かつ未来指向のアクションを提言するものです。仕事も学びもAIで変わり続けていく中で、クリエイティブスキルは大学にとって最も重要な差別化要素のひとつになりつつあります。

アカデミックリーダー向けプレイブック： アクションのための5つの柱

変わり続ける労働市場のニーズに対応し、様々な学部の学生エンゲージメントを再構築するために、教育機関のリーダーがなすべきことは、プログラムやプラットフォームの整備だけではありません。重視すべきは、創造性に自信を持てる文化の醸成です。次に紹介する5つの柱は、本レポートの主なインサイトを大胆かつ実行可能なフレームワークとしてまとめ、大学全体で創造性、AIスキル、学生の価値を高められるようにしたものです。

第1の柱: キャリアに不可欠なものとして、クリエイティブスキルとAIスキルを重視する。

- › クリエイティブスキルとAIスキルはもはや選択的なものではありません。人事担当者が期待する新たな必須能力となっています。
- › データリテラシーや効果的なコミュニケーションと同様に、クリエイティブスキルとデジタルスキルを大学のキャリア準備の枠組みの中で必須の要件とします。
- › ビジュアルストーリーテリング、生成AIツール、プロンプトベースの問題解決に対する需要を反映し、それに合ったカリキュラム、IT、学生の成功戦略になるよう調整します。

第2の柱: 専攻を問わず学生全員を早い段階でアドビツールに触れさせる。

- › 早い段階でクリエイティブツールに触れることが、自信、エンゲージメント、学術的発見を促します。
- › 1年生での活動、一般教養、入門コースに Adobe Express と Firefly を組み込んで、誰でもアクセスできるようにします。
- › 従来のクリエイティブ分野だけでなく、全学部の教員がビジュアルやマルチメディア、生成AIを活用したプロジェクト課題を出せるようにします。



1

2

3

4

5

第3の柱:生徒が自信を持ってスキルをアピールできるように支援する。

- › スキル開発は方程式の半分に過ぎません。学生は、自分が制作したものを明確な表現でプレゼンテーションする方法も知っておく必要があります。
- › デジタルポートフォリオ、マルチメディア履歴書、LinkedInブランディングに関するトレーニングを実施し、学生が自分の成果を目にとめてもらえるようにします。
- › 面接や求人応募における制作物のプレゼンテーション方法を学生に指導するモジュールやワークショップを取り入れます。

第4の柱:学生の成果を追跡し、学生のストーリーを伝える。

- › 学生の価値を測定・拡大することが、教育機関の戦略とブランドを強化することになります。
- › 卒業生アンケートやOB/OGインタビューなどの方法で、雇用、自信、エンゲージメントにおけるアドバイツール関連の成果(デジタルスキル、創造的思考、責任あるAIリテラシーなど)を追跡します。
- › 学生の成功例を採用情報や戦略的コミュニケーション、資格認定レポートで大きく取り上げ、創造性に対する投資の効果を目に見える形で示します。

第5の柱:Adobe Creative Campusモデルに全力で取り組む。

- › 最も勢いのある教育機関は、創造の公平性とインフラに全面的に取り組んでいる大学です。
- › すべての学生、教員、職員にアドバイツールのライセンスを付与し、シームレスなアクセスとキャンパス全体への導入を確保します。
- › Adobe Creative Campusネットワークに加盟してベストプラクティスを共有し、革新的なモデルを共同開発して、デジタルクリエイティビティ最先端の教育機関としての地位を築きます。



1

2

3

4

5

未来を開く革新的な アカデミックリーダー

教育と仕事の未来は、既に形となって現れつつあります。創造性、コミュニケーション力、AIリテラシーといったスキルは、もはや将来的に必要となるものではなく、現在のキャリア準備に不可欠なものです。

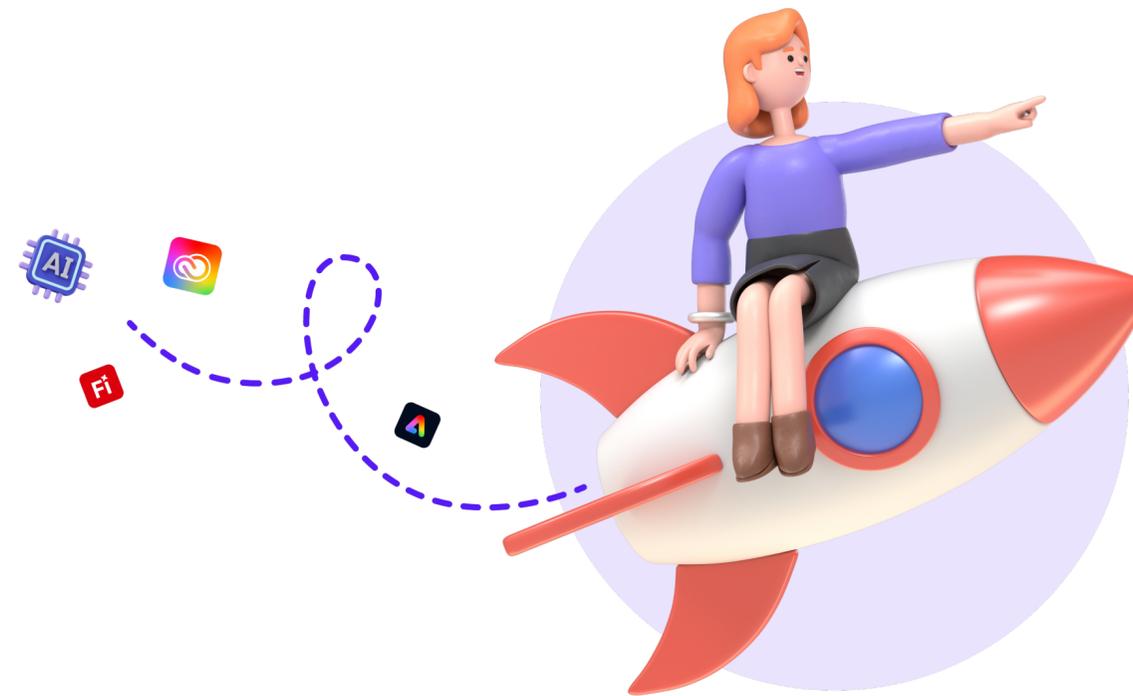
この激変の時代において、他より抜きん出ることができるのは、こうした能力を育成できるよう学生を支援している教育機関です。大学は今すぐ大胆なアクションを起こし、キャリアの成功に向けた出発地点となることで、卒業生に未来を開く備えをさせることができます。

アドビは数十年にわたる高等教育への投資と Adobe Creative Campus プログラムなどの取り組みにより、学生主体で成果重視のサポートを提供する、信頼できるパートナーとしての地位を確立しています。教室でのプロジェクトからキャリアポートフォリオ、AIを活用したデザインから個人のストーリーテリングまで、アドビのツール、カリキュラム、専門能力開発、学生コミュニティプログラムによって、すべての学生が自分の考えを明確に表現し、自分をブランディングして、未来を切り開けるようになります。

創造性とAIをキャリア準備の基本的な側面として重視する教育機関は、学生を最初の仕事に備えさせるだけでなく、生涯にわたる適応力と影響力も身に付けさせることとなります。Creative Campusのリーダーたちは、学生の成果の向上、学生エンゲージメ

ントの強化、学術的イノベーションに対する一貫した取り組みなど、様々な成果を目の当たりにしています。カリキュラム、テクノロジー、学生の成功のための戦略を連動させることにより、大学全体が活性化します。

キャンパス全体でツールにアクセスできるよう投資するということは、単にツールを購入するということではありません。これはトランスフォーメーションの実現であり、すべての学生が自分という人間を表現し、どんな知識があるかを示し、何を目指しているかを語れるようにするという事です。創造性を育み支えるインフラは、既に整っています。今、必要なのは、教育機関全体にわたる大胆なアクションです。



付録

国・地域別情報

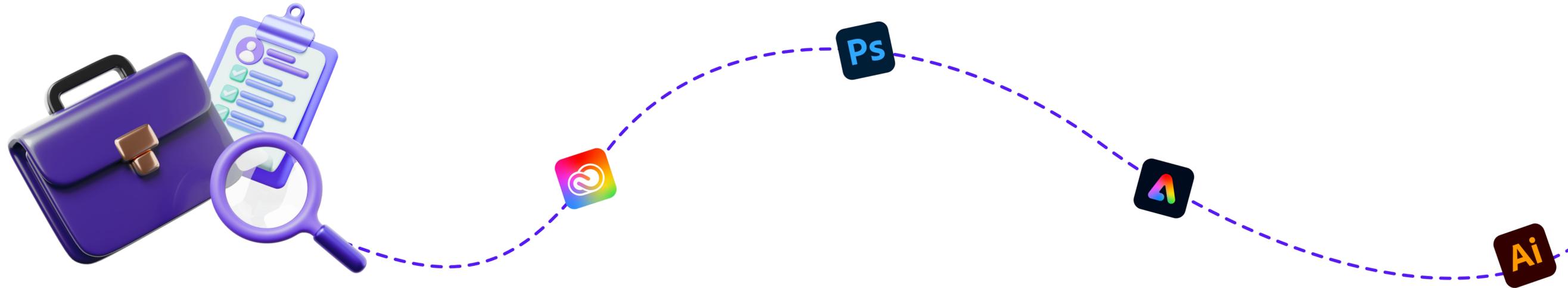


米国

- › アドビツールを使用している米国の学生は、将来の就職先への様々な提出物に資格情報、証明書、バッジを含める可能性が最も高くなっています。履歴書に資格証明書を含める予定の学生は78%、ポートフォリオについて同様の回答をしている学生は59%で、世界全体で見た数字(それぞれ65%と44%)を15ポイントも上回っています。
- › アドビツールを使用している米国の学生は、個人の成長や興味のために、学位取得以外にも専門資格や学術資格を取得する意欲が世界で最も高くなっています。63%の学生が、クリエイティブスキルを向上させたい、あるいはスキルがあることを証明したいという理由で、証明書、バッジ、またはマイクロ creden シャルを取得する意欲があると回答しました(世界全体では51%)。また、57%は個人的な興味のために取得したと回答しています。一方、世界全体で見ると、アドビツールを使用している学生のうち、同様の回答をした学生は過半数に満たない47%でした。

ヨーロッパ

- › アドビツールを使用しているヨーロッパの学生は、クリエイティブなAIスキルが採用の決定においてますます重要になっていると考える傾向が最も大きくなっています。アドビのようなプロ仕様のツールとAIスキルの組み合わせが採用決定で重要度を増していると答えた学生は56%、米国およびアジア太平洋地域で同様の回答をした学生は44%でした。
- › アドビツールを使用しているヨーロッパの学生は、アドビツールを使用している米国の学生よりも、所属する組織がクリエイティブなAI認定資格を重視していると考えられる傾向があります。87%の学生が、専門資格、認定資格、バッジがあれば、就職活動でクリエイティブなAIスキルがあることをアピールしやすいと回答しています。これに対し、米国の学生全体では81%でしたが、世界全体で見れば同じく87%となっています。
- › アドビツールを使用しているヨーロッパの学生、特にフランス、ドイツ、イタリアの学生は、AIリテラシーが現在の仕事に不可欠であると答える傾向が強くなっています。88%(世界全体では86%)が、AIリテラシーは現在の仕事で重要であると回答しました(同様の回答をした学生は、ドイツとフランスでは91%、イタリアでは90%でした)



アジア太平洋地域

- ▶ アジア太平洋地域の社会人は、アドビツールに慣れることで自信が持てたと感じる傾向が最も強くなっています。キャリアの浅い社会人の97%が、アドビのようなプロ仕様のツールに慣れていたことで、自信を持って卒業後最初の仕事を見つけられたと感じています。これに対し、米国で同様の回答をした社会人は83%、世界全体では94%でした。
- ▶ アドビツールを使用しているアジア太平洋地域の学生は、資格取得の動機として、仕事やインターンシップで必要だからという理由を挙げる傾向が最も強くなっています。47%が、仕事やインターンシップで必要なため、学位以外にも専門資格や学術資格を取得する意欲があると回答しています。これに対し、世界全体では35%となっています。
- ▶ アドビツールを使用しているアジア太平洋地域の学生は、アドビを通じてAI資格を取得する傾向が最も強く、90%（世界全体の学生では83%）が、アドビで取得した資格はAI機能やAIリテラシーをカバーするものであると回答しています。
- ▶ アドビツールを使用しているアジア太平洋地域の学生は、他の地域の学生よりも、専門資格が重要と考えています。専門資格があれば、就職活動でクリエイティブなAIスキルをアピールしやすいと考える学生は93%、資格は優秀な人材の指標になると考える学生は90%に上ります。これを世界全体で見ると、それぞれ87%と85%になっています。



参考資料



¹『[The Future of Jobs Report 2025](#)』世界経済フォーラム、2025年1月。

²『[Global Talent Trends](#)』LinkedIn、2024年10月。

³『[The most in-demand skills for 2024](#)』LinkedIn、2024年。

⁴『[McKinsey Technology Trends Outlook 2025](#)』マッキンゼー、2025年。

⁵『[The Creative Edge:How Digital Credentials Unlock Emerging Skills in the Age of AI](#)』アドビ、2024年。